

# 平成18年度 佐賀県民満足度調査結果の概要

平成19年4月18日

佐賀県統括本部政策監グループ

# 目次

## ・調査の概要

## ・調査結果

第1章 県民満足度

第2章 施策・事業に対する県民意識

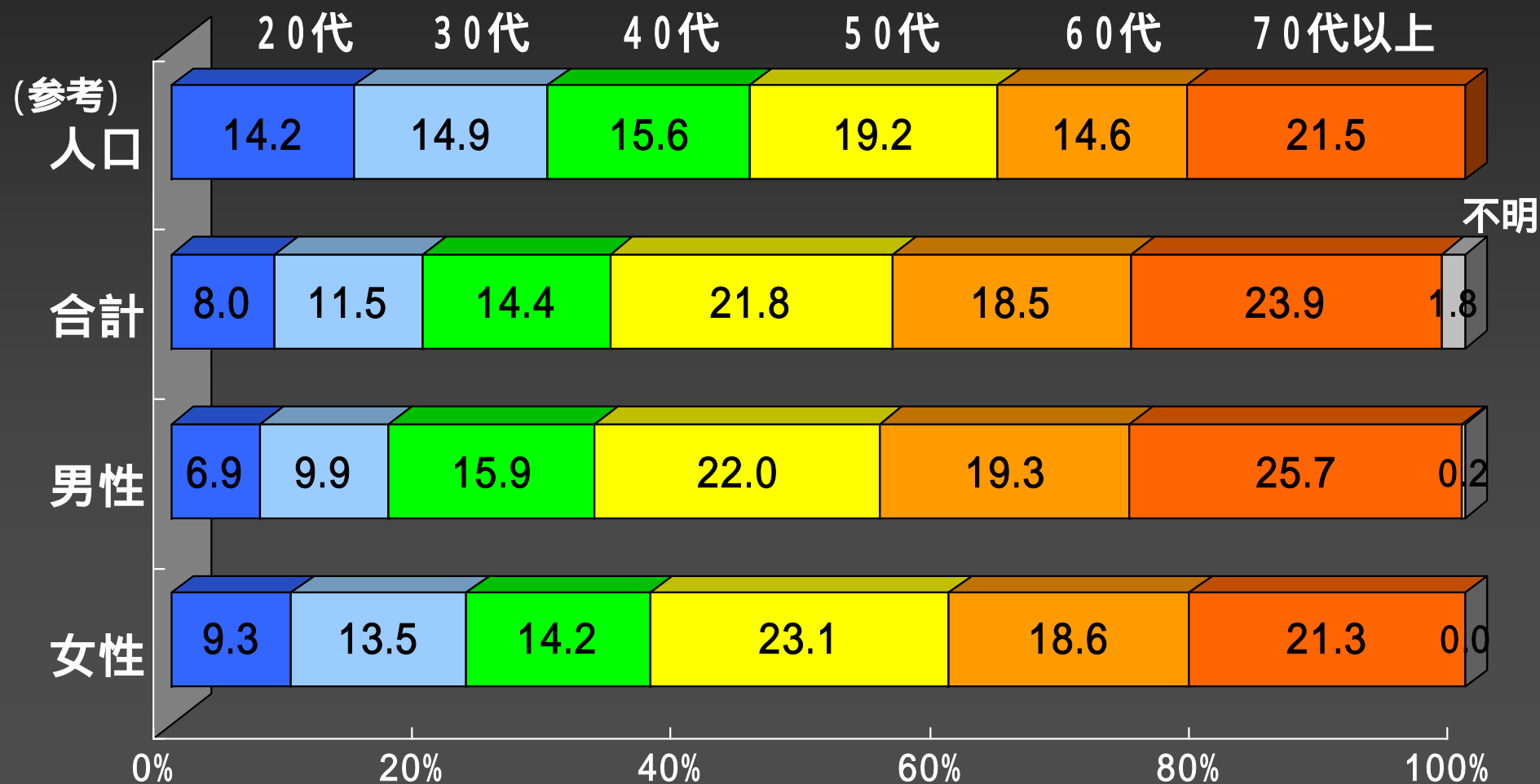
第3章 県政の運営に対する県民意識

第4章 県政に対する提案・意見

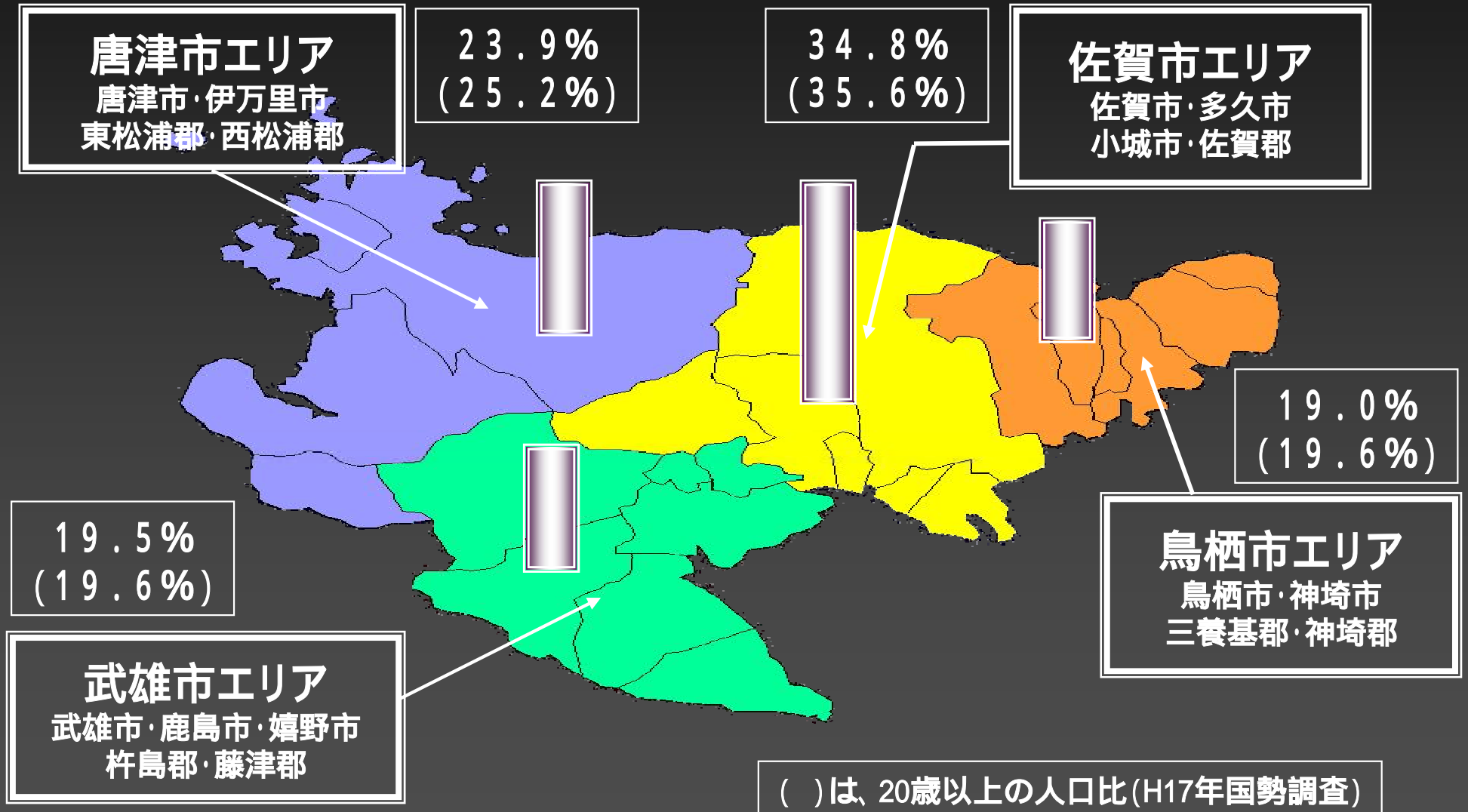
## ・調査結果の県政への反映

# 調査の概要 (P.1-4)

- 調査対象：20歳以上の男女3,000人を無作為抽出  
(有効回答数1,233人、有効回答率41.1%)
- 調査方法：郵送調査法
- 調査期間：平成19年1月26日(金)～2月10日(土)



# 回答者居住地別分布 (P.4)

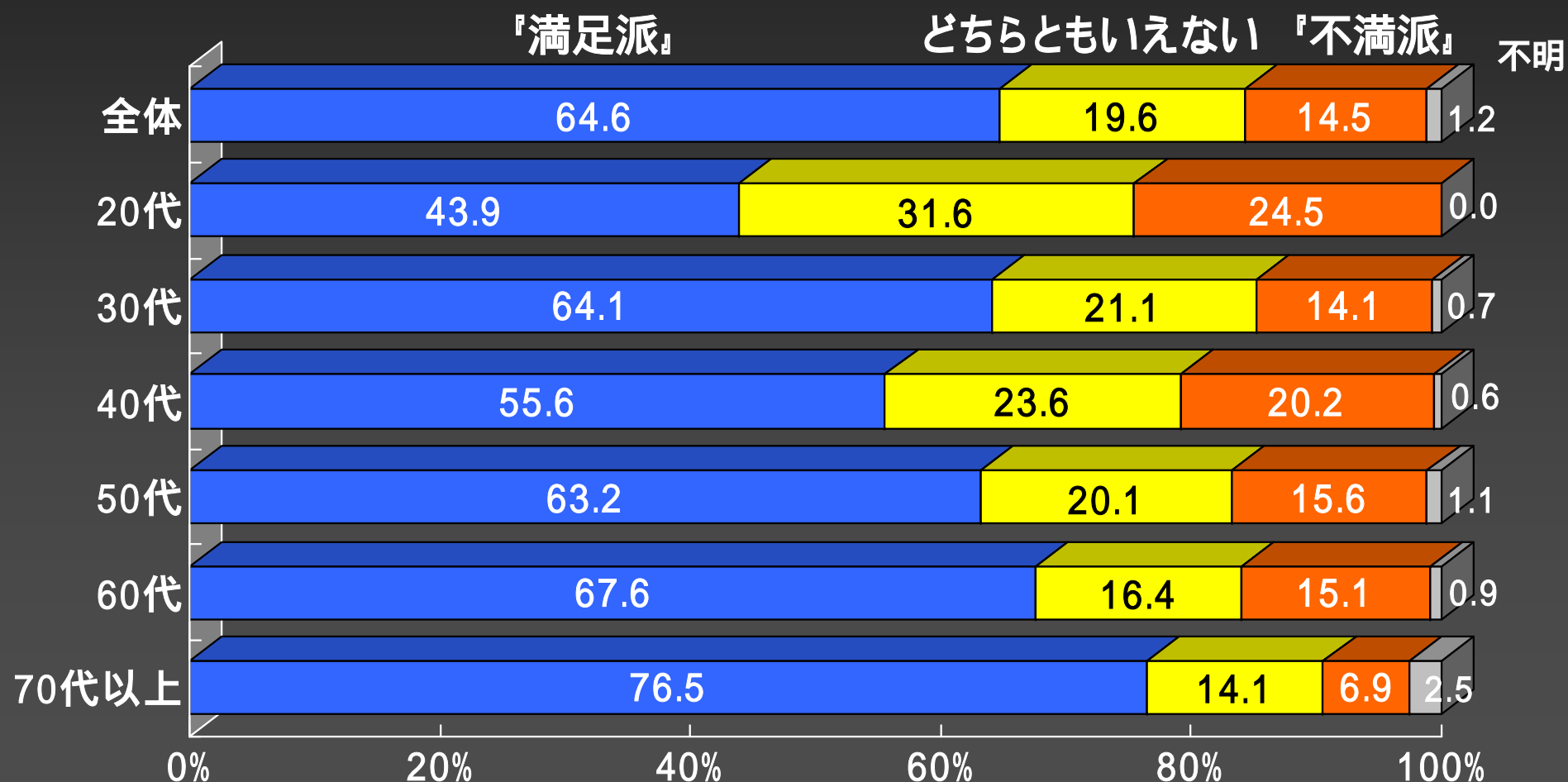


# 第1章 県民満足度

- 1 佐賀県でのくらしの総合満足度
- 2 くらしの各分野についての満足度
- 3 くらしの各分野についての県に対する期待度
- 4 各分野についての満足度と期待度の関連

# 佐賀県でのくらしの総合満足度 (P.11-12)

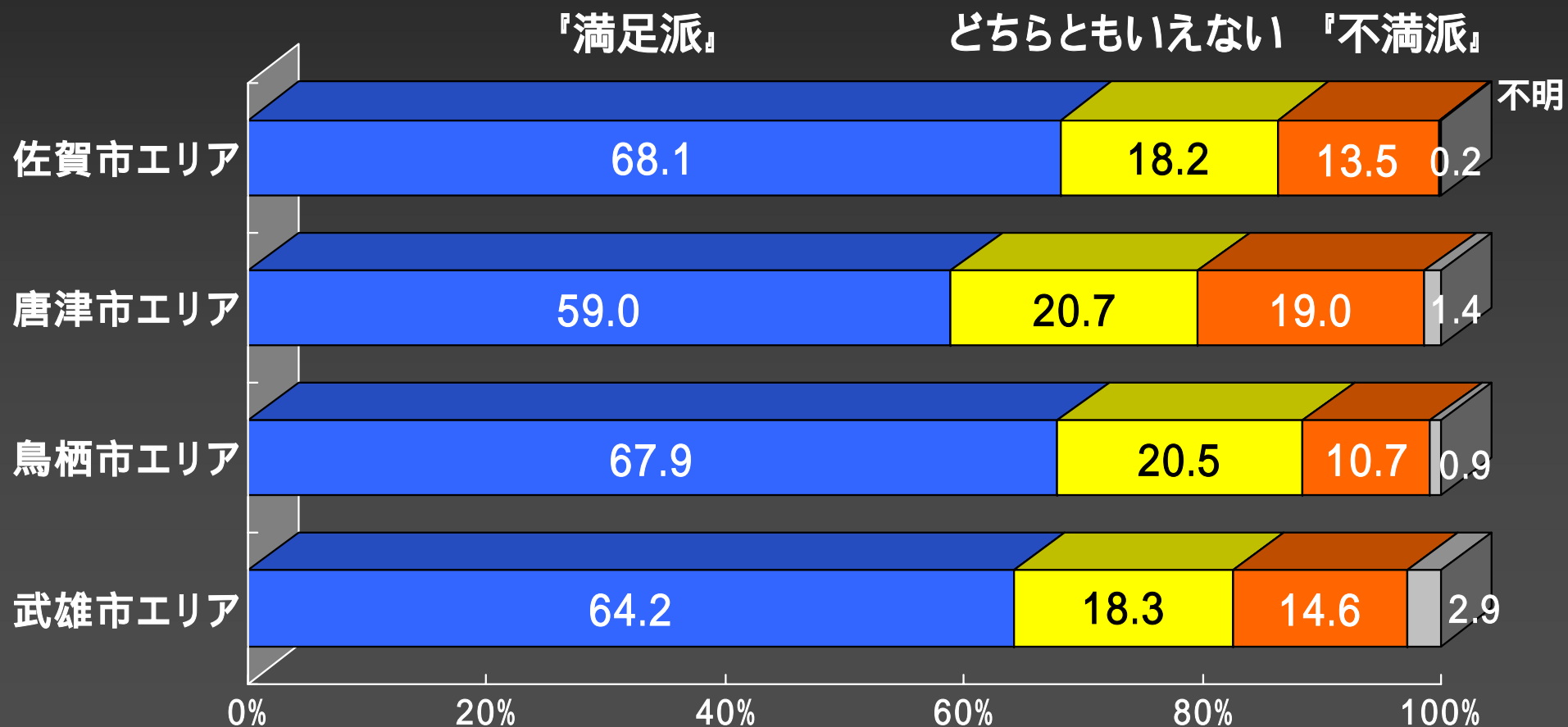
- 年代が上がるにしたがって『満足派』が高くなる傾向がみられる。
- 20代だけ『満足派』が5割を切っている。



# 佐賀県でのくらしの総合満足度 (P.11-12)

## ～ 4エリア別～

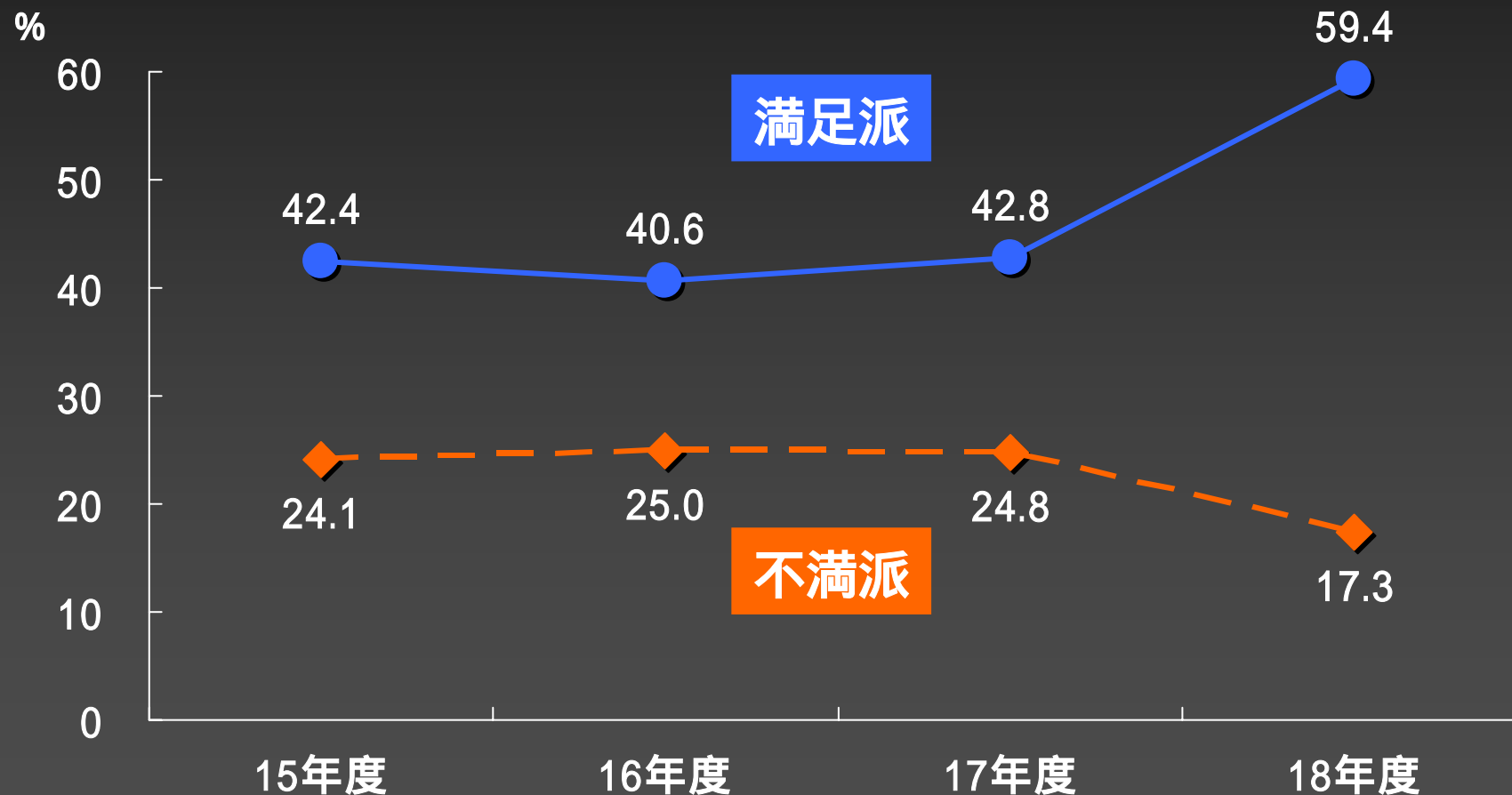
➤ 佐賀市エリア(68.1%)と鳥栖市エリア(67.9%)は高いが、唐津市エリアは59.0%と低く、唯一6割を切っている。



# 佐賀県でのくらしの総合満足度の時系列比較 (P.13)

## (20～64歳)

➤ 『満足派』が16.6ポイント上昇し、『不満派』が7.5ポイント低下したため、18.0ポイント差から42.1ポイント差に広がった。

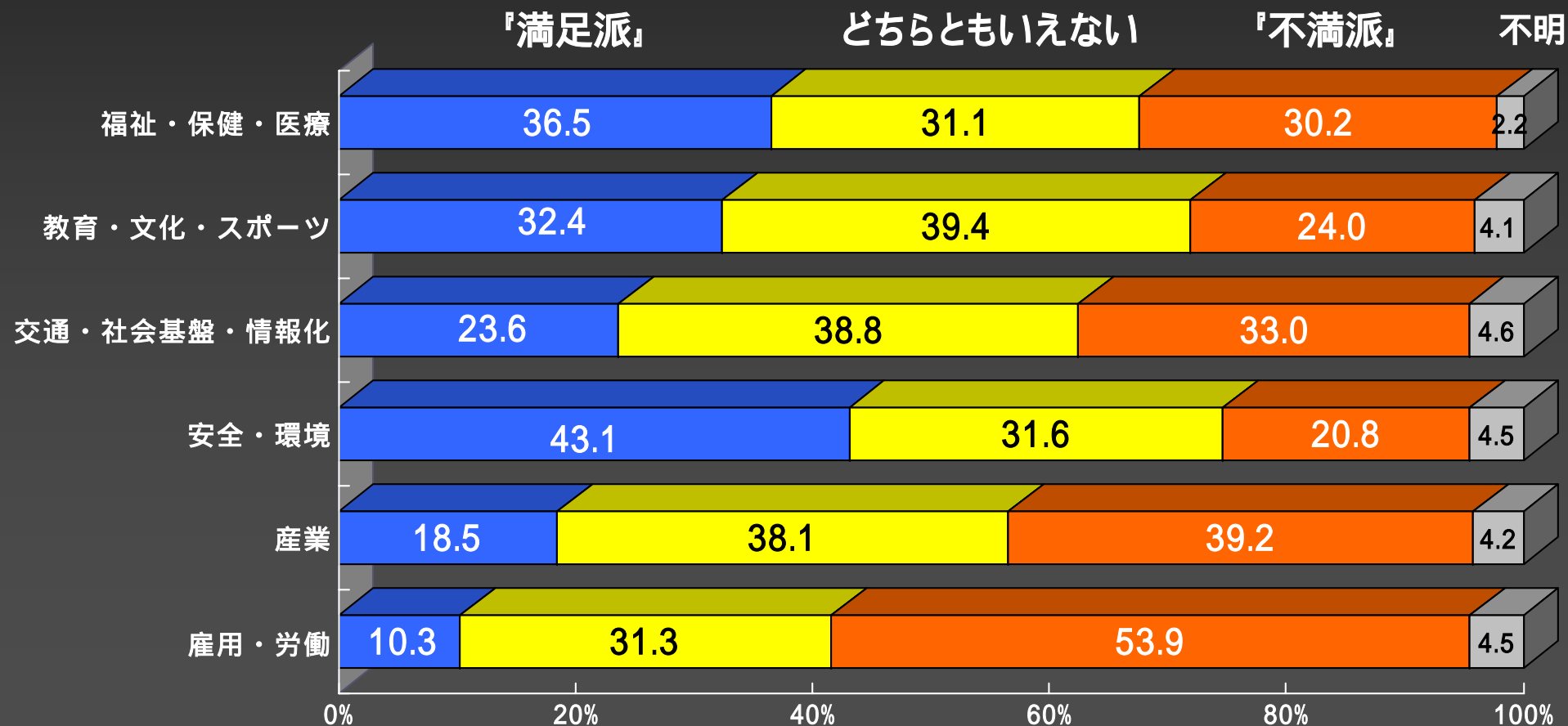


過去の調査結果との時系列比較は、各年度の調査対象年齢が異なるため、共通する年代層(20歳～64歳)で比較した。



# くらしの各分野についての満足度 (P.14-19)

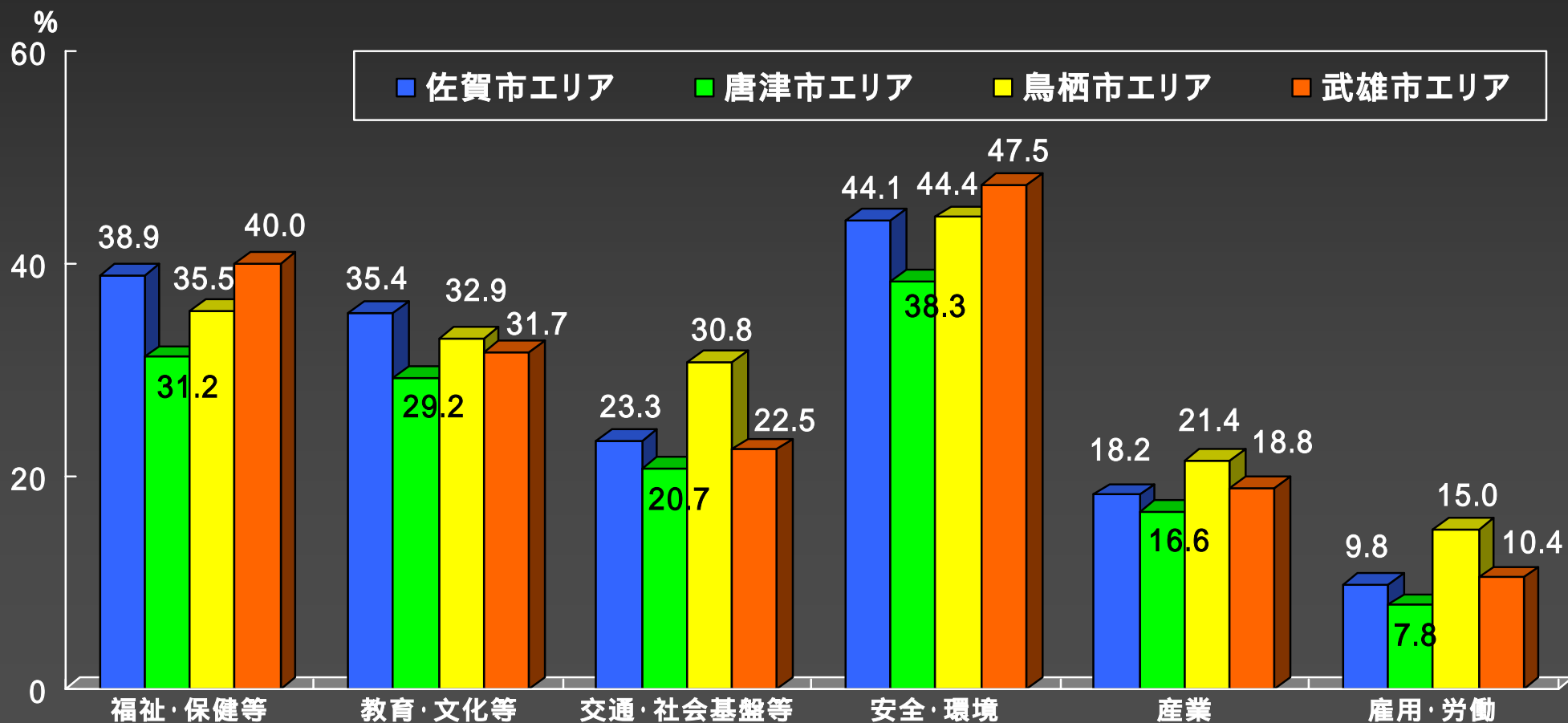
- 『満足派』は、「安全・環境」、「福祉・保健・医療」、「教育・文化・スポーツ」の順に高く、これら3項目は『満足派』が『不満派』を上回っている。
- 一方、「雇用・労働」、「産業」、「交通基盤・社会基盤整備・情報化」では、『不満派』が上回っており、特に「雇用・労働」は『不満派』が5割を超えている。



# くらしの各分野についての満足度 (P.14-19)

～ 4エリア別～

- 「交通基盤・社会基盤整備・情報化」で、鳥栖市エリアの満足度が最も高くなっている。
- 唐津市エリアは、6つの分野すべてで満足度が最も低くなっている。



# くらしの各分野についての満足度の時系列比較 (P.20)

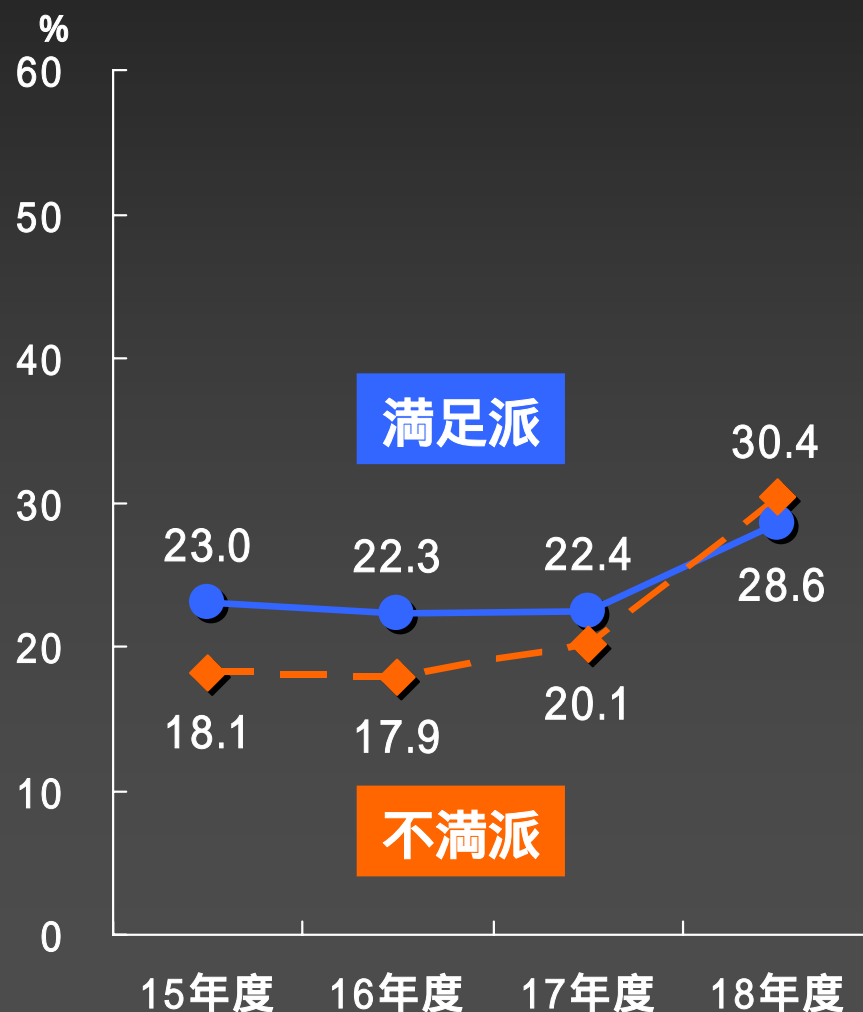
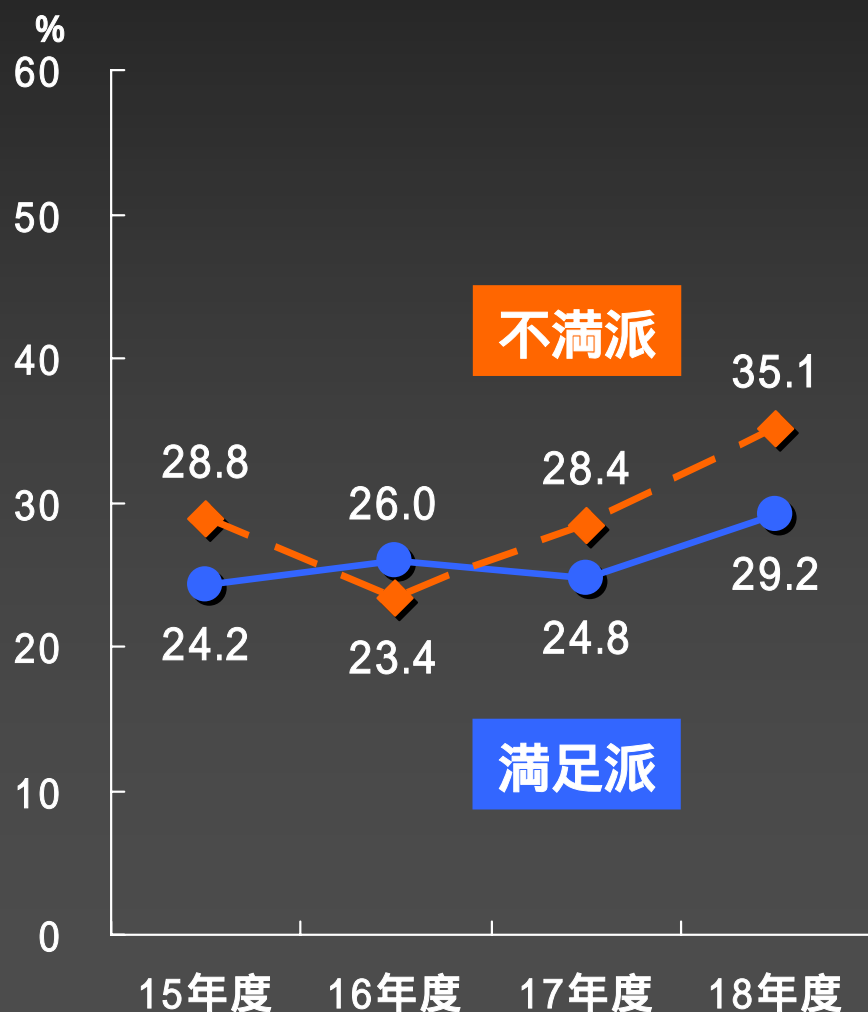
(20~64歳)

## 福祉・保健・医療

## 教育・文化・スポーツ

➤ 『満足派』、『不満派』ともに上昇した。

➤ 『不満派』が『満足派』を若干上回った。

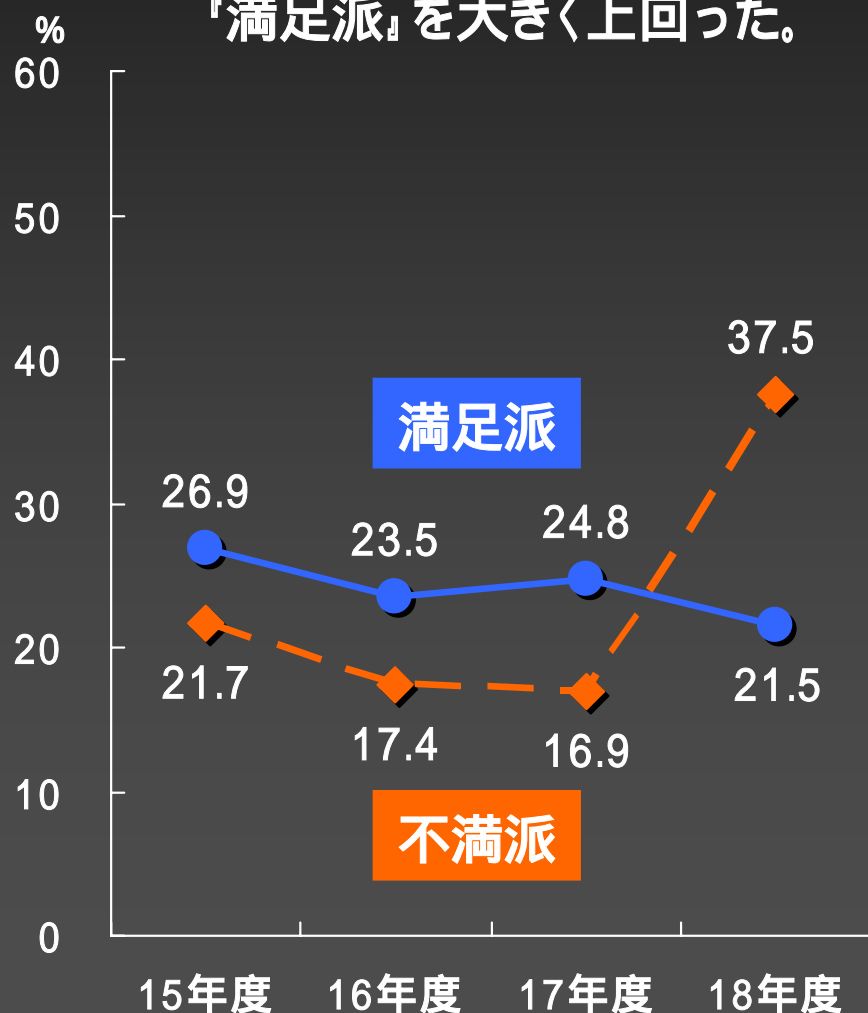


# くらしの各分野についての満足度の時系列比較 (P.20)

(20~64歳)

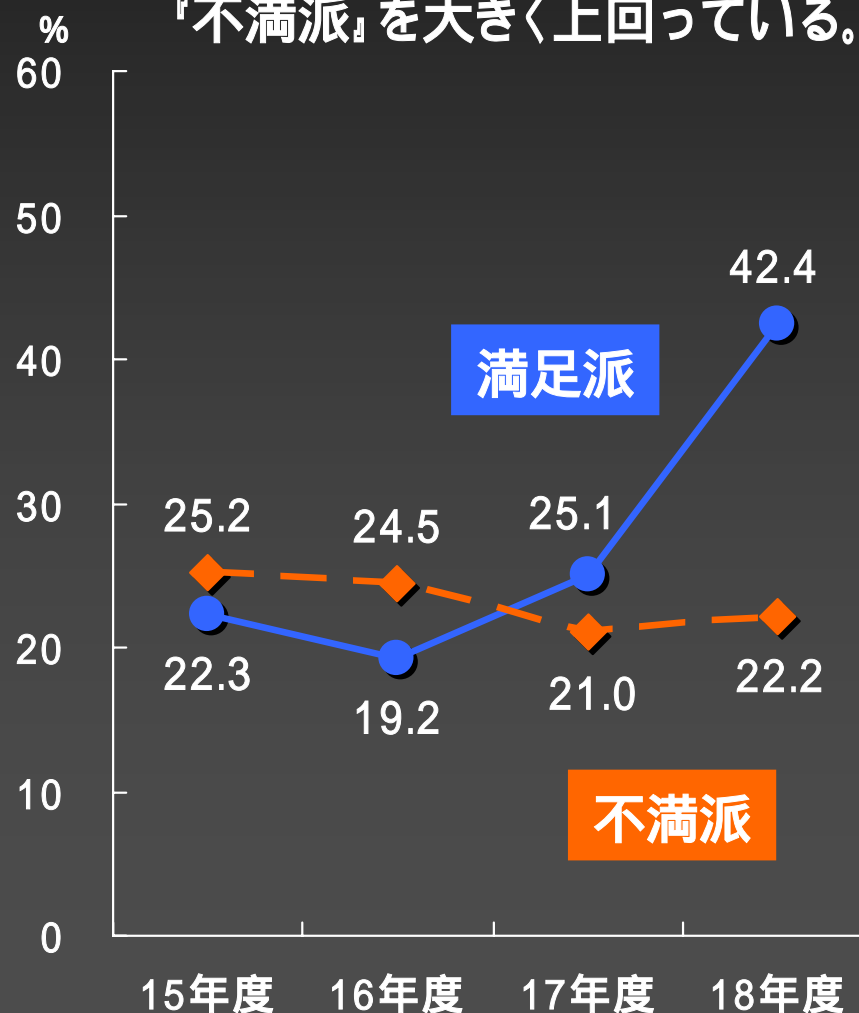
## 交通基盤・社会基盤整備・情報化

➤ 『不満派』が非常に高くなり、『満足派』を大きく上回った。



## 安全・環境

➤ 『満足派』が非常に高くなり、『不満派』を大きく上回っている。

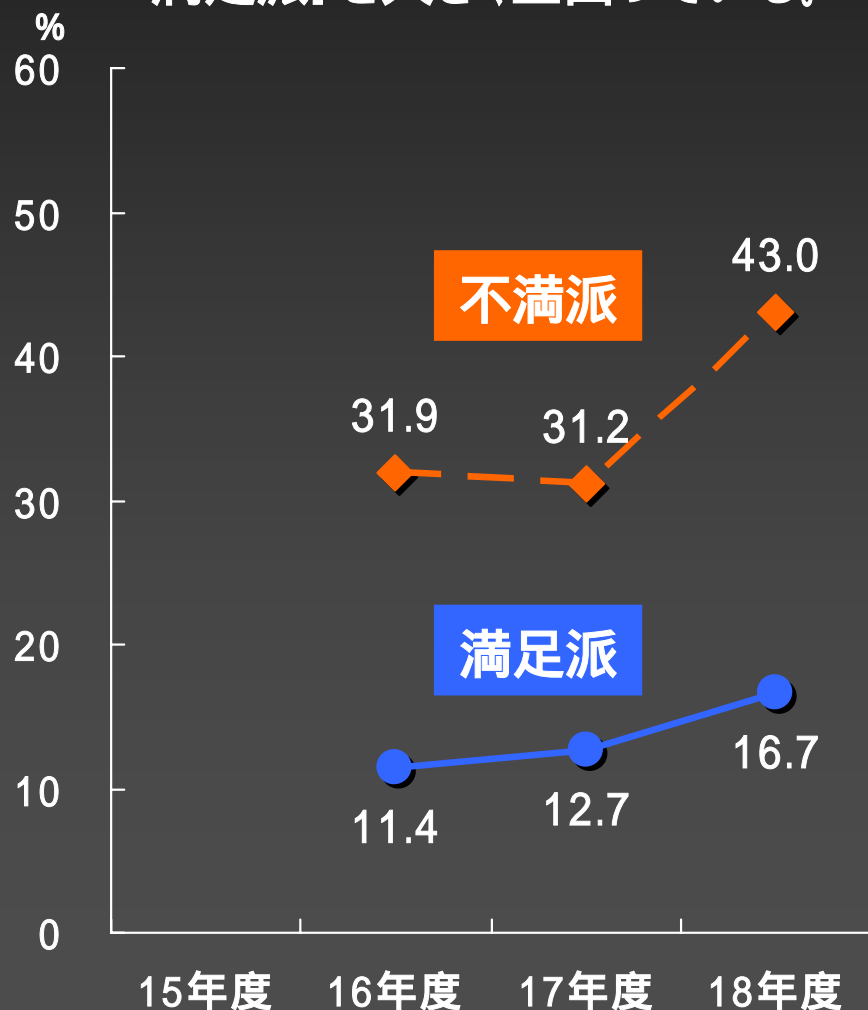


# くらしの各分野についての満足度の時系列比較 (P.20)

(20~64歳)

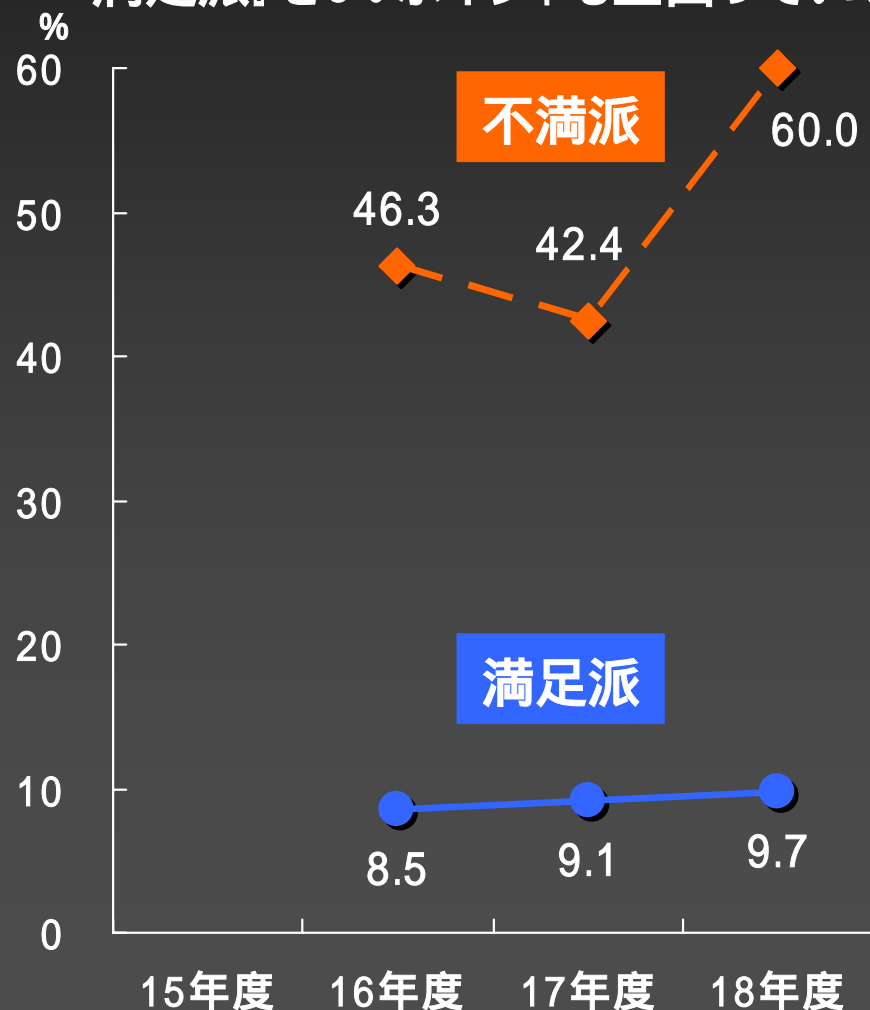
## 産業

➤ 『不満派』が非常に高くなり、『満足派』を大きく上回っている。



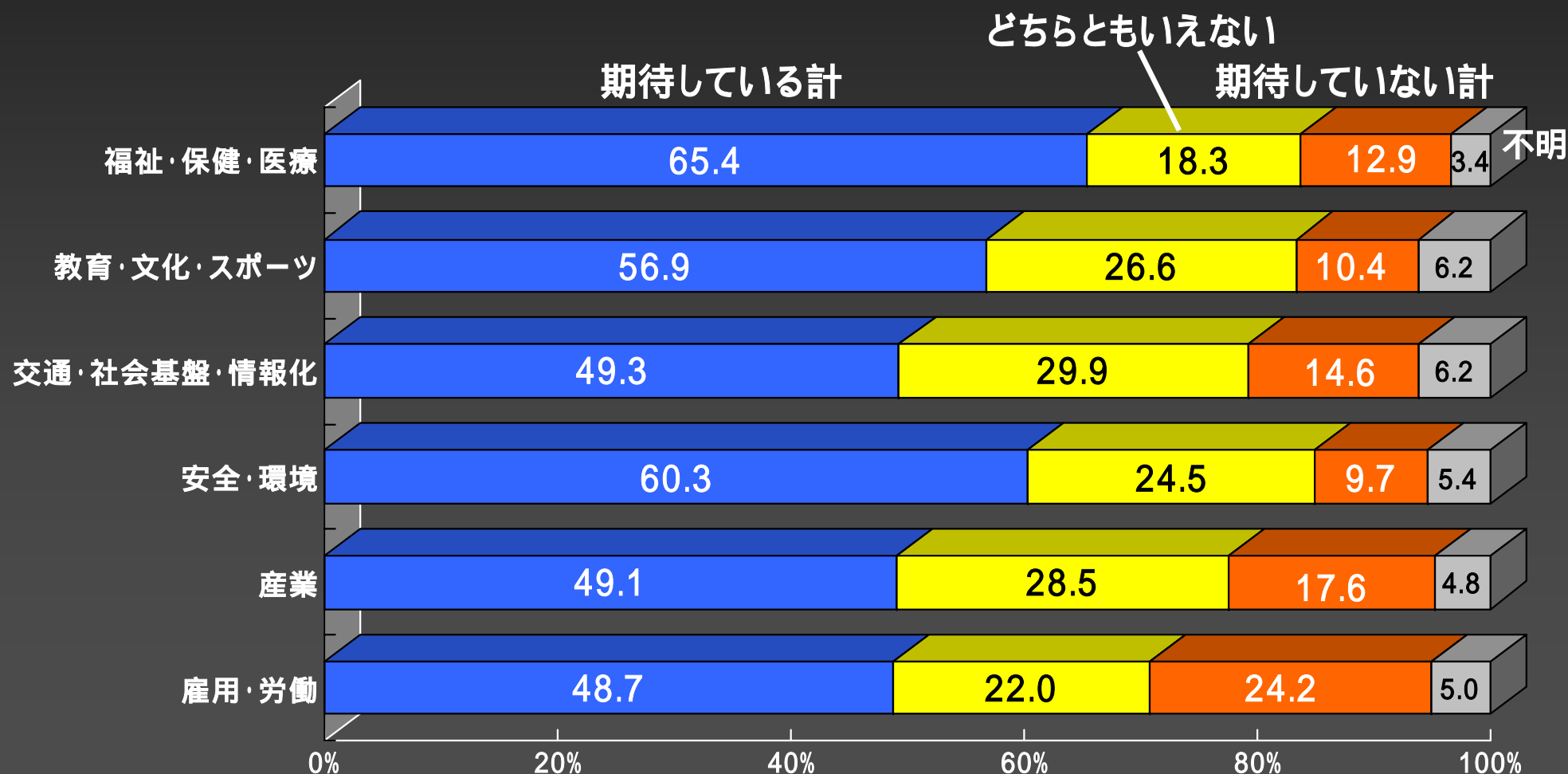
## 雇用・労働

➤ 『不満派』が非常に高くなり、『満足派』を50ポイントも上回っている。



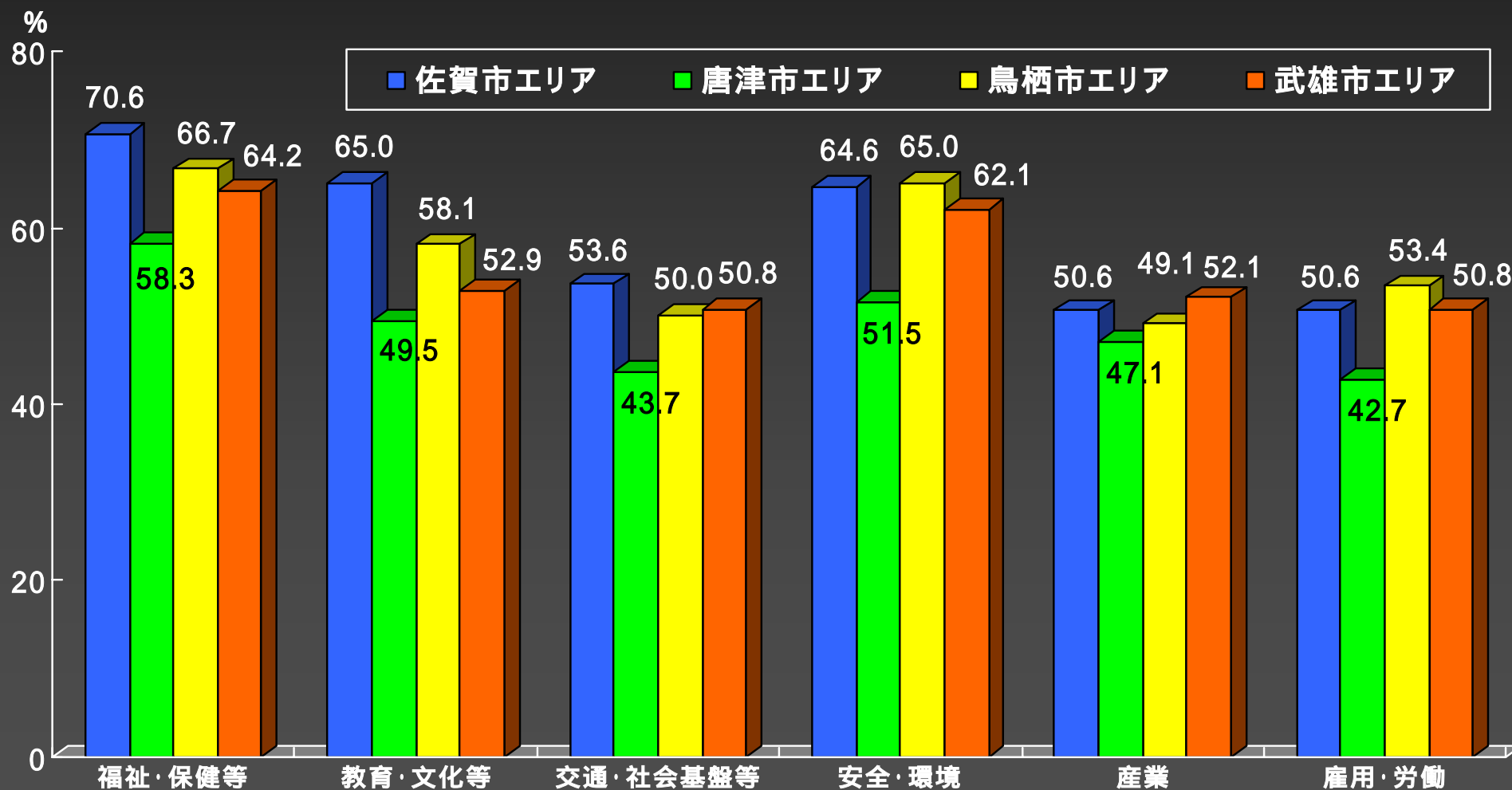
## くらしの各分野についての県に対する期待度 (P.21-29)

- 『期待している計』は、「福祉・保健・医療」、「安全・環境」の順に高くなっている。
- 『期待していない計』は、「雇用・労働」と「産業」で高くなっている。  
(なお、『期待していない計』の大半は「期待しても無理」)

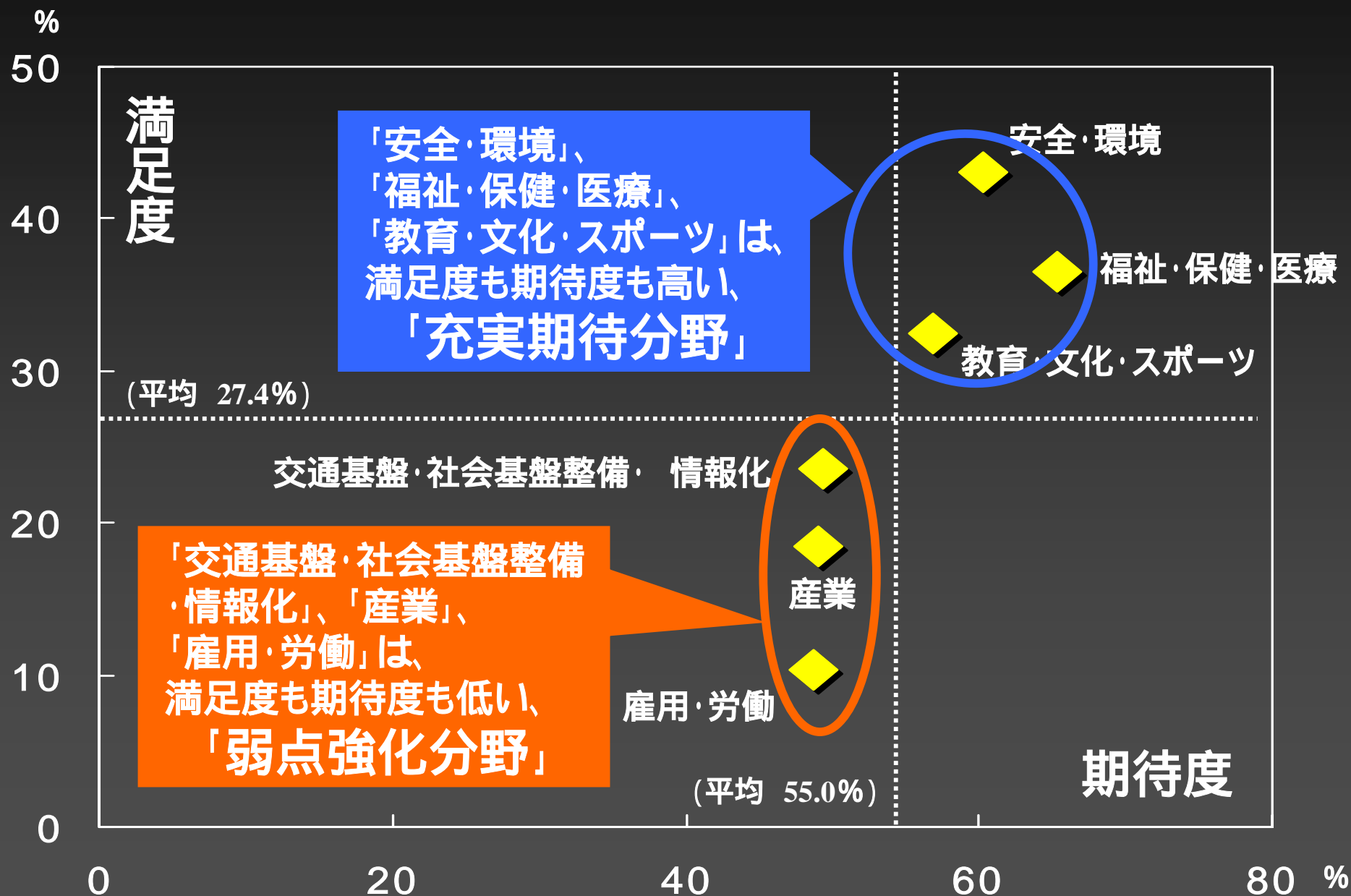


## くらしの各分野についての県に対する期待度 (P.21-29) ～ 4エリア別～

- 「教育・文化・スポーツ」で、佐賀市エリアの期待度が最も高くなっている。
- 唐津市エリアは、6つの分野すべてで期待度が最も低い。



# くらしの各分野についての満足度と期待度の関連



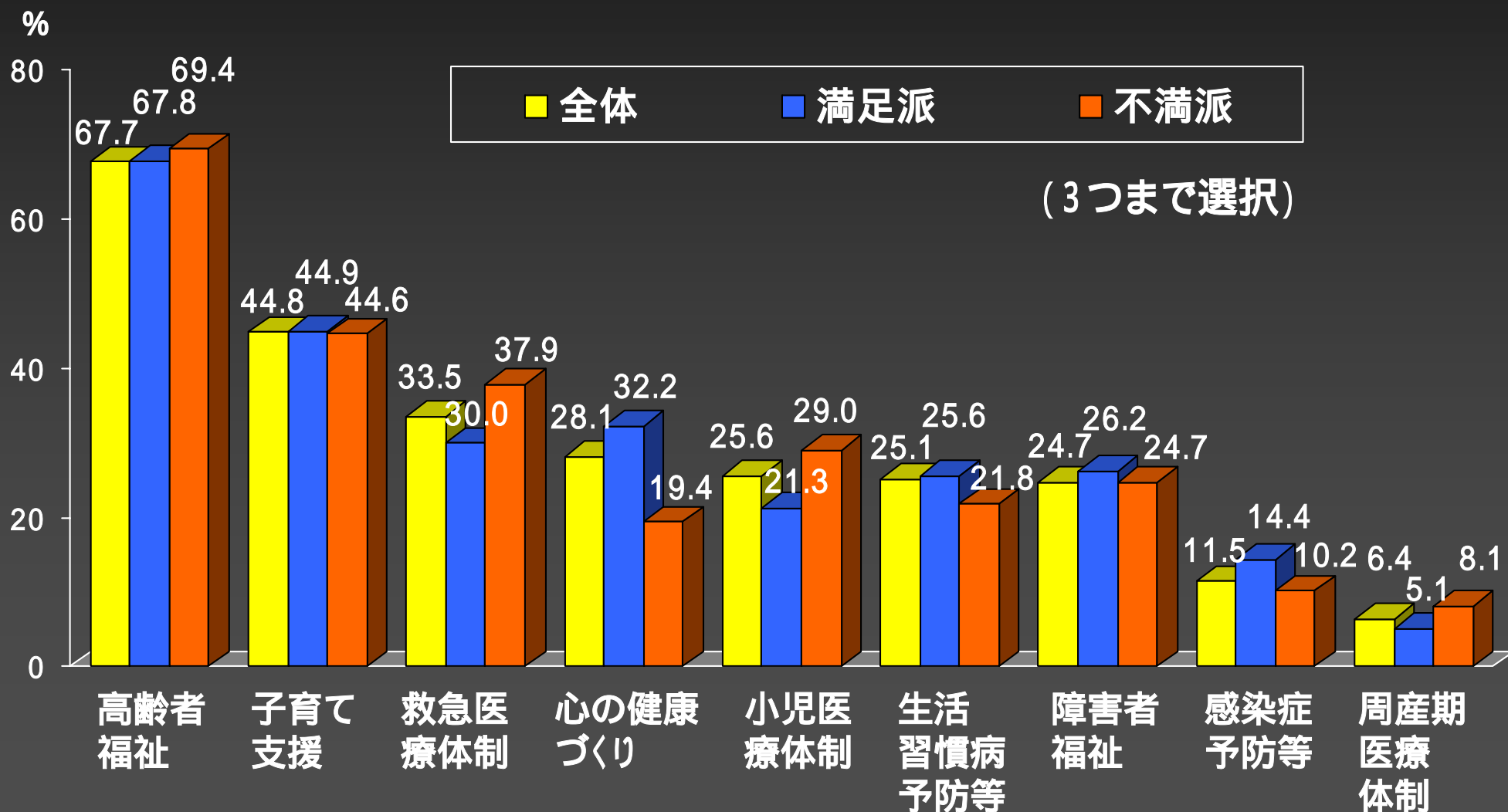


## 第2章 施策・事業に対する県民意識

- 1 「福祉・保健・医療」分野
  - ・「ユニバーサルデザイン」、「三世代同居」についての考え など
- 2 「教育・文化・スポーツ」分野
  - ・教員の高めていくべき力量 など
- 3 「交通基盤・社会基盤整備・情報化」分野
  - ・高速インターネットに接続しない理由 など
- 4 「安全・環境」分野
  - ・飲酒運転をなくすために充実するべき対策 など
- 5 「産業」分野
  - ・まちの中心部(中心市街地)の再生、大型店の郊外出店規制 など
- 6 「雇用・労働」分野
  - ・ニート自立支援の充実するべき取組 など

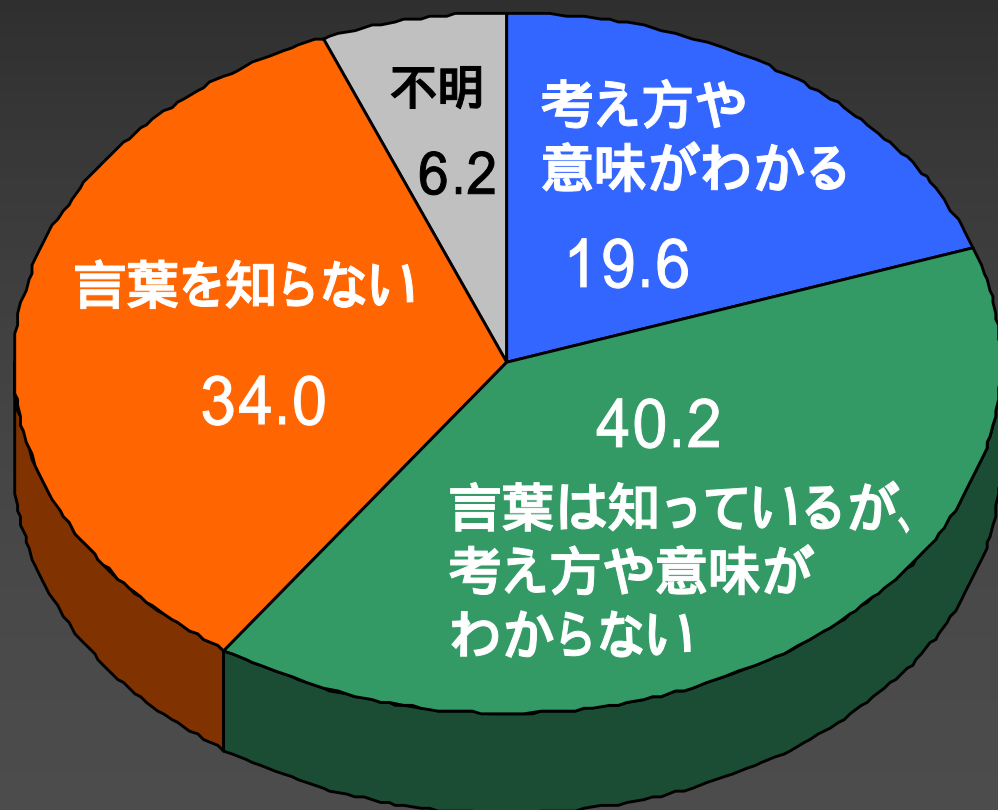
# 「福祉・保健・医療」分野で力を入れていくべき施策(P.31-32)

- 「高齢者福祉」、「子育て支援」、「救急医療体制」の順。
- 『不満派』は『満足派』に比べ、「救急医療体制」や「小児医療体制」が高い。

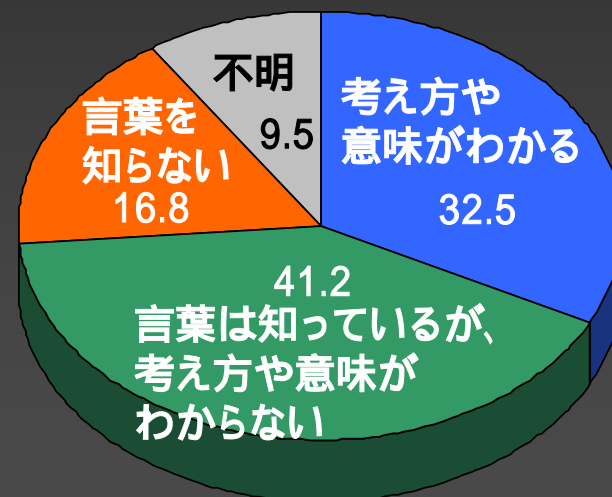


## 「ユニバーサルデザイン」の認知度 (P.33-34)

- 「ユニバーサルデザイン」の「考え方や意味が分かる」県民は2割にとどまり、「言葉を知らない」県民が3割以上となっている。
- 熊本県と比べると、佐賀県は認知度が低い。



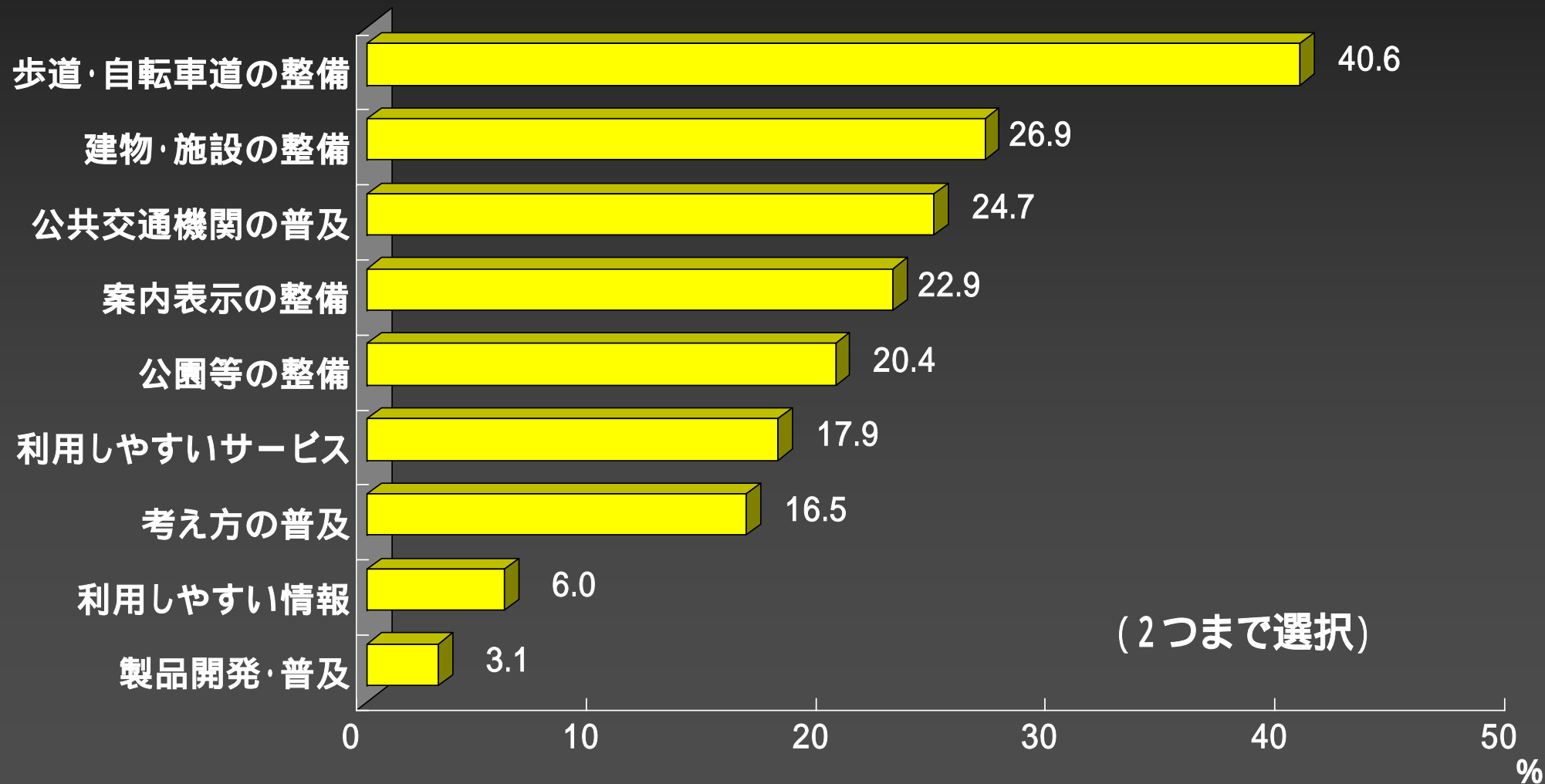
(参考)熊本県



(資料)熊本県「2006年県民アンケート調査」  
(平成18年3月)

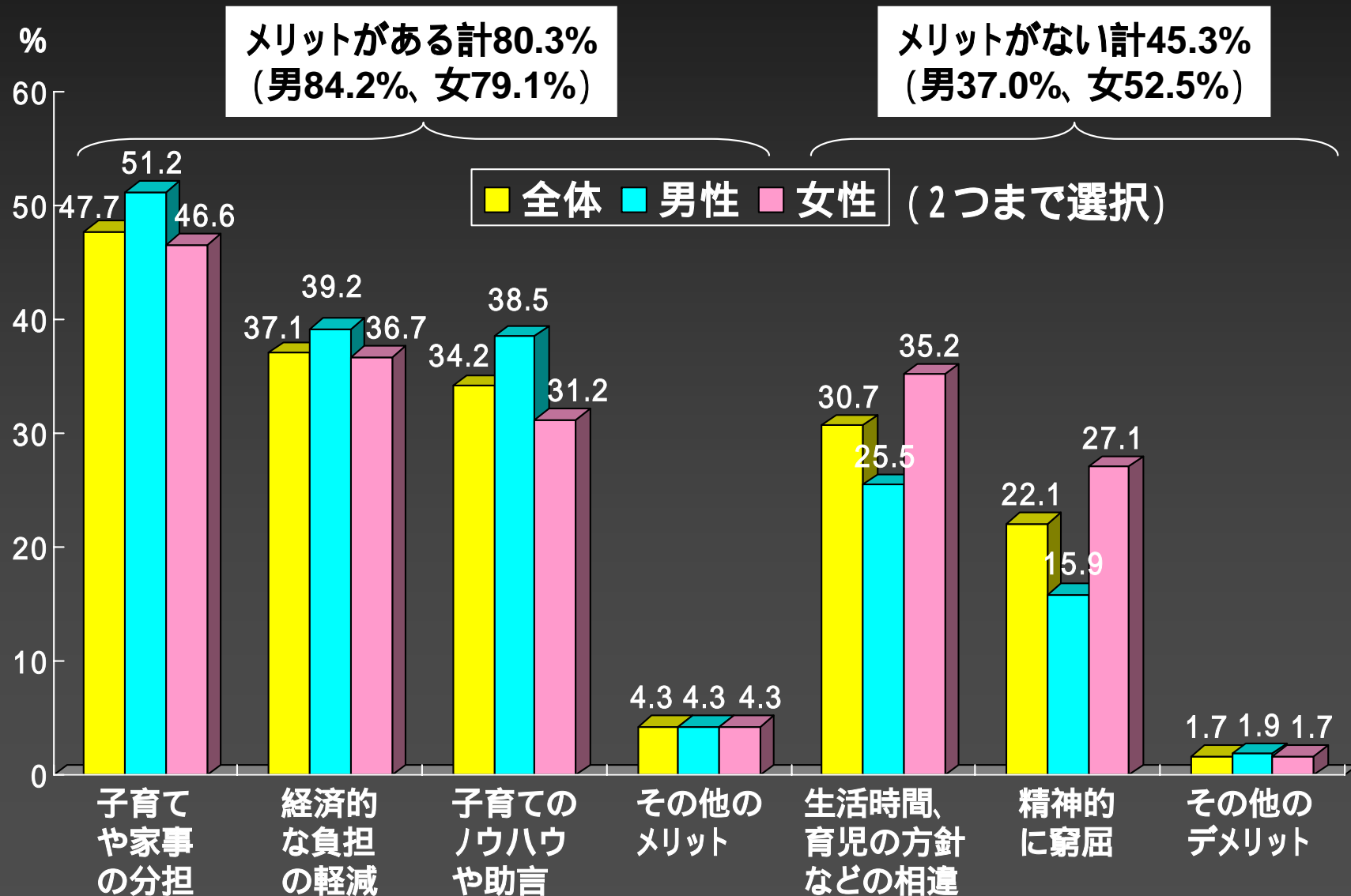
# 「ユニバーサルデザイン」のまちづくりの取組 (P.35-36)

➤「歩道・自転車道の整備」が最も多く、「建物・施設の整備」、「公共交通機関の普及」の順となっている。



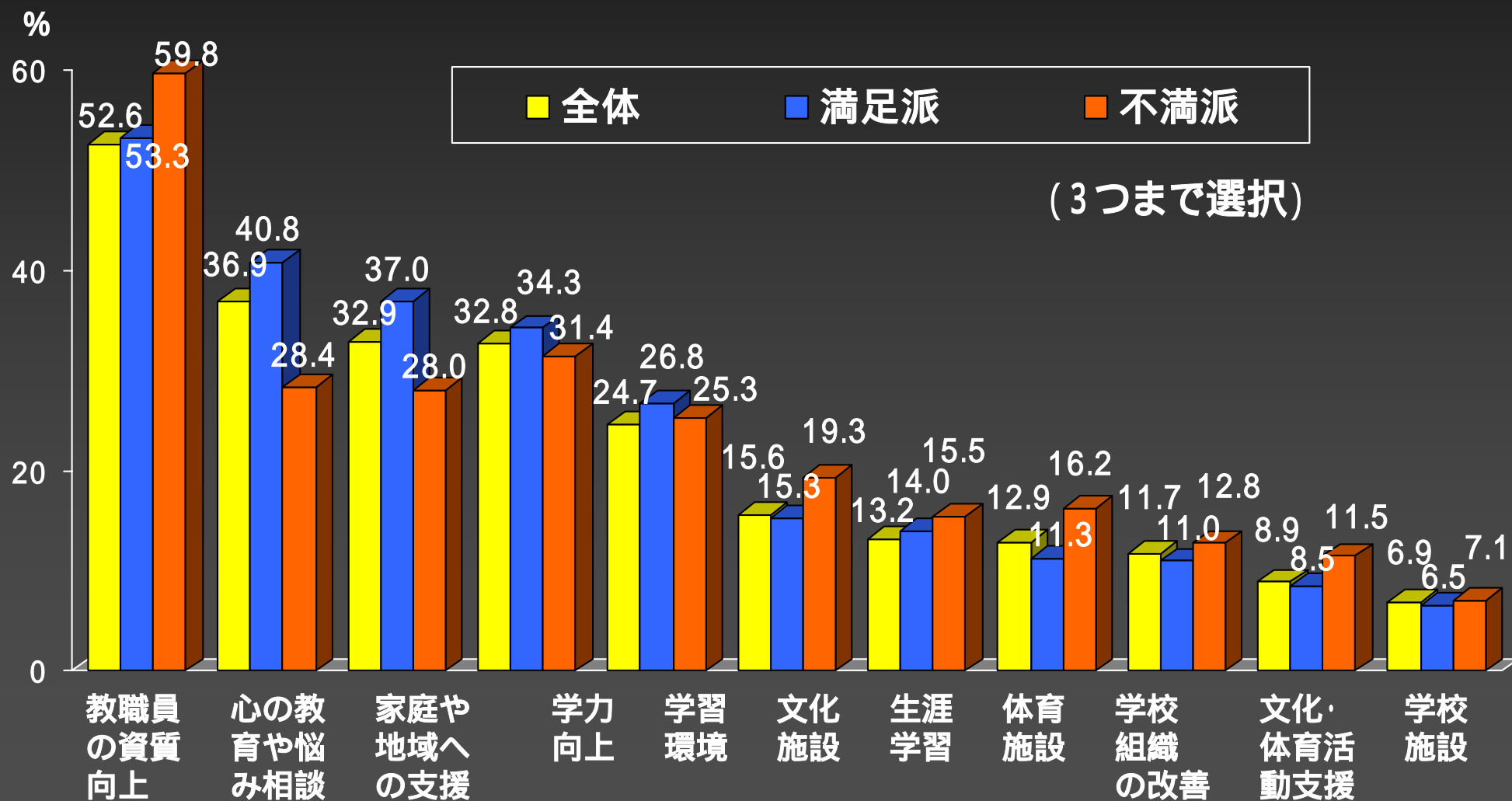
# 三世代同居についての考え方 (P.39-40)

- 「メリットがある計」が「メリットがない計」を上回っている。
- メリットは男性の方が高く、デメリットは女性の方が高い。



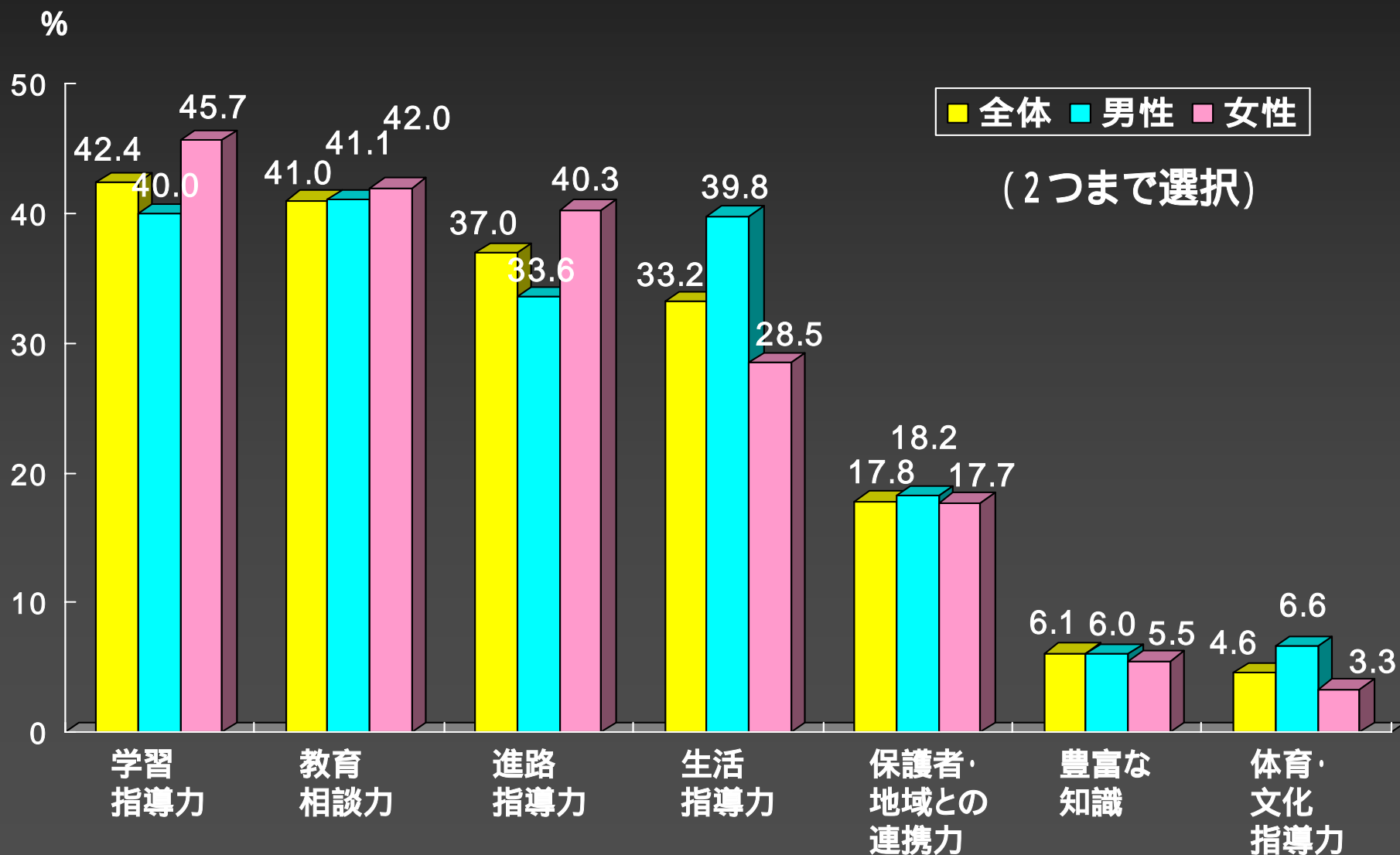
### 「教育・文化・スポーツ」分野で力を入れていくべき施策(P.41-42)

- 「教職員の資質向上」、「心の教育や悩み相談」、「家庭や地域への支援」の順。
- 『不満派』は『満足派』に比べ、「教職員の資質向上」が高い。



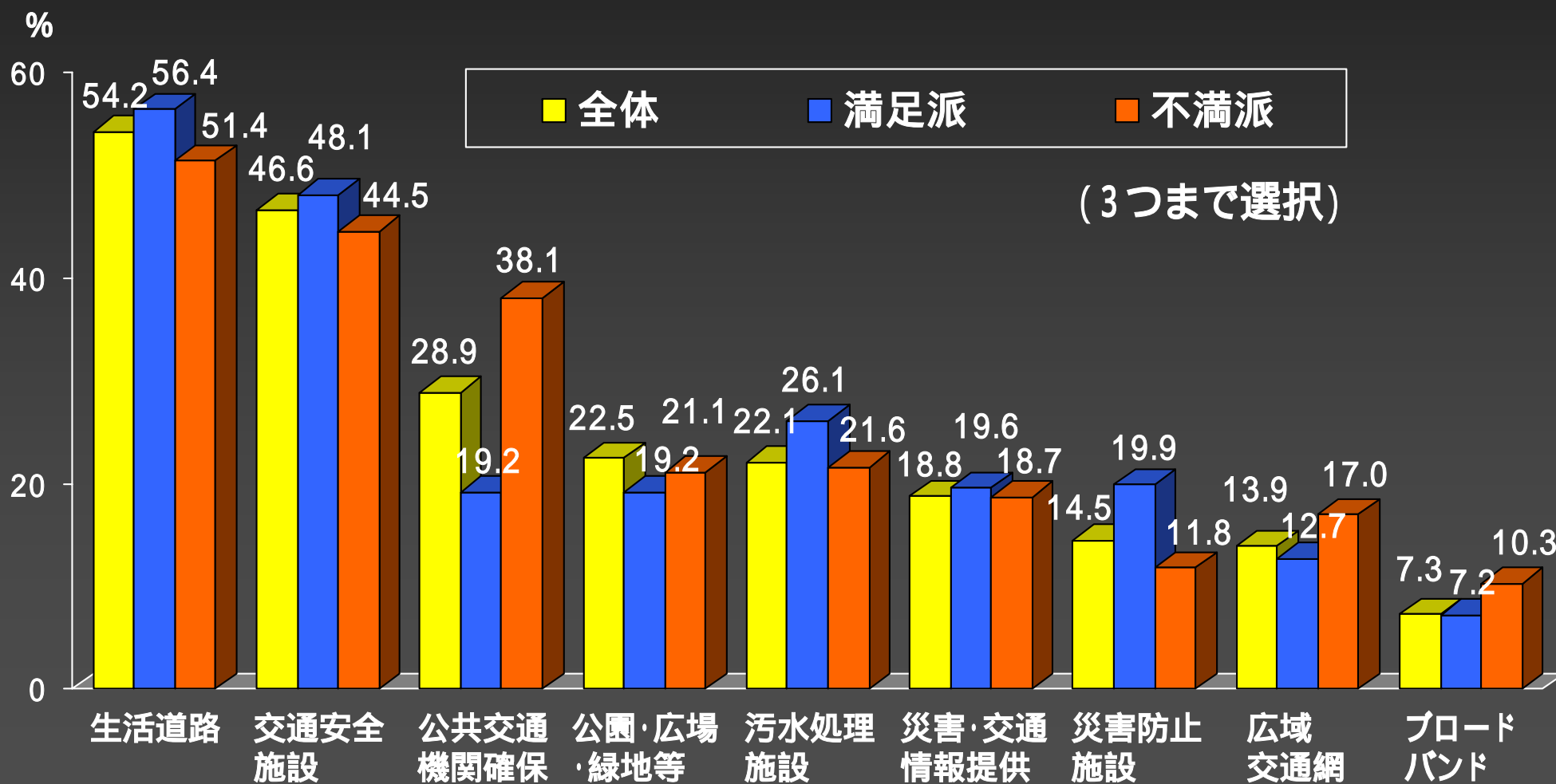
## 教員の高めていくべき力量 (P.45-46)

- 「学習指導力」、「教育相談力」、「進路指導力」の順。
- 「学習指導力」、「進路指導力」は女性の方が、「生活指導力」は男性の方が高い。



# 「交通基盤・社会基盤整備・情報化」分野で 力を入れていくべき施策 (P.49-50)

- 「生活道路」、「交通安全施設」、「公共交通機関の確保」の順。
- 「不満派」は「満足派」に比べ、「公共交通機関の確保」が非常に高い。

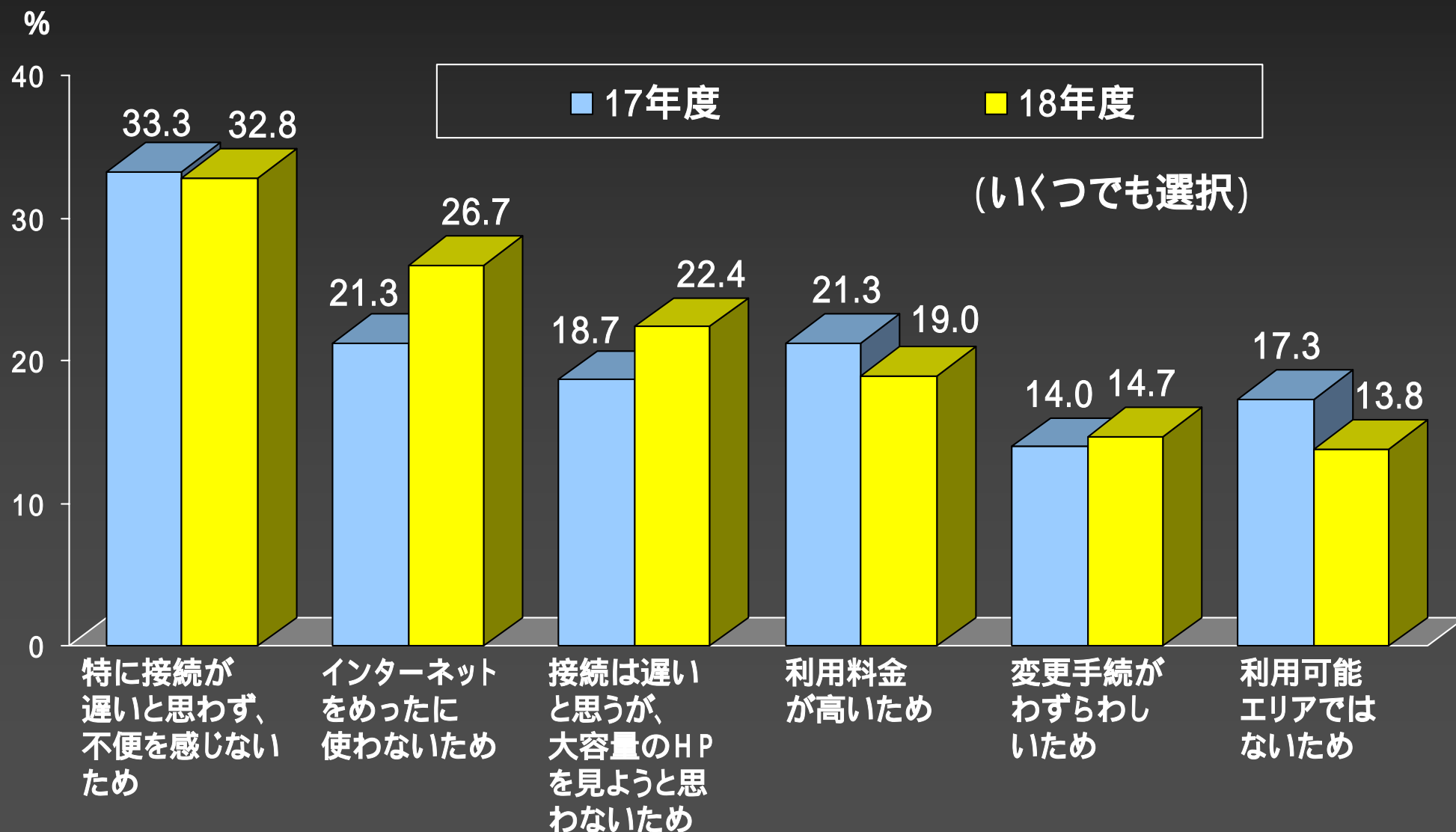




# 高速インターネットに接続しない理由 (P.58-60)

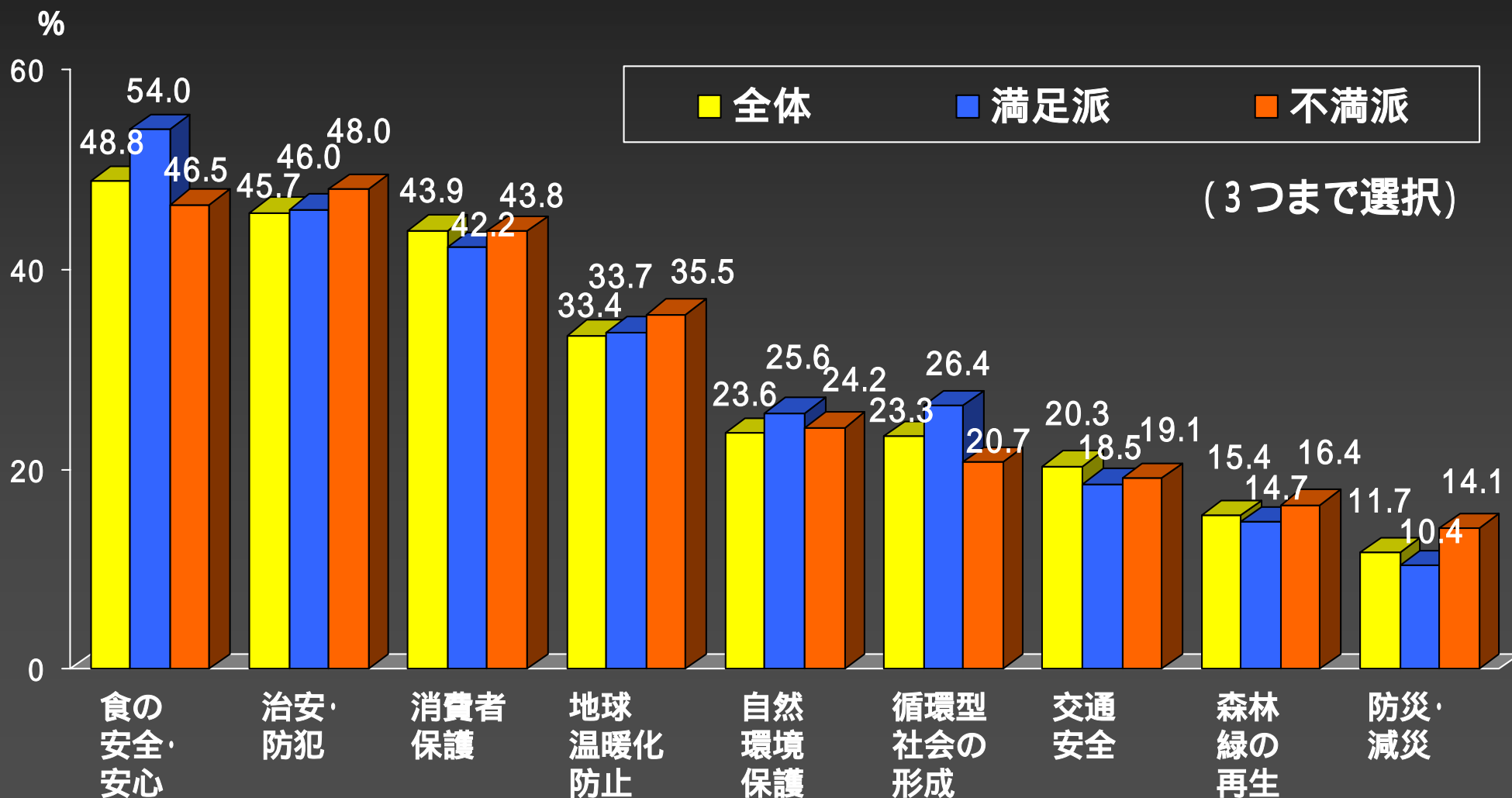
(20～64歳)

- 「不便を感じない」、「めったに使わない」、「大容量のHPを見ない」の順。
- 「利用可能エリアではない」がわずかながら低下している。



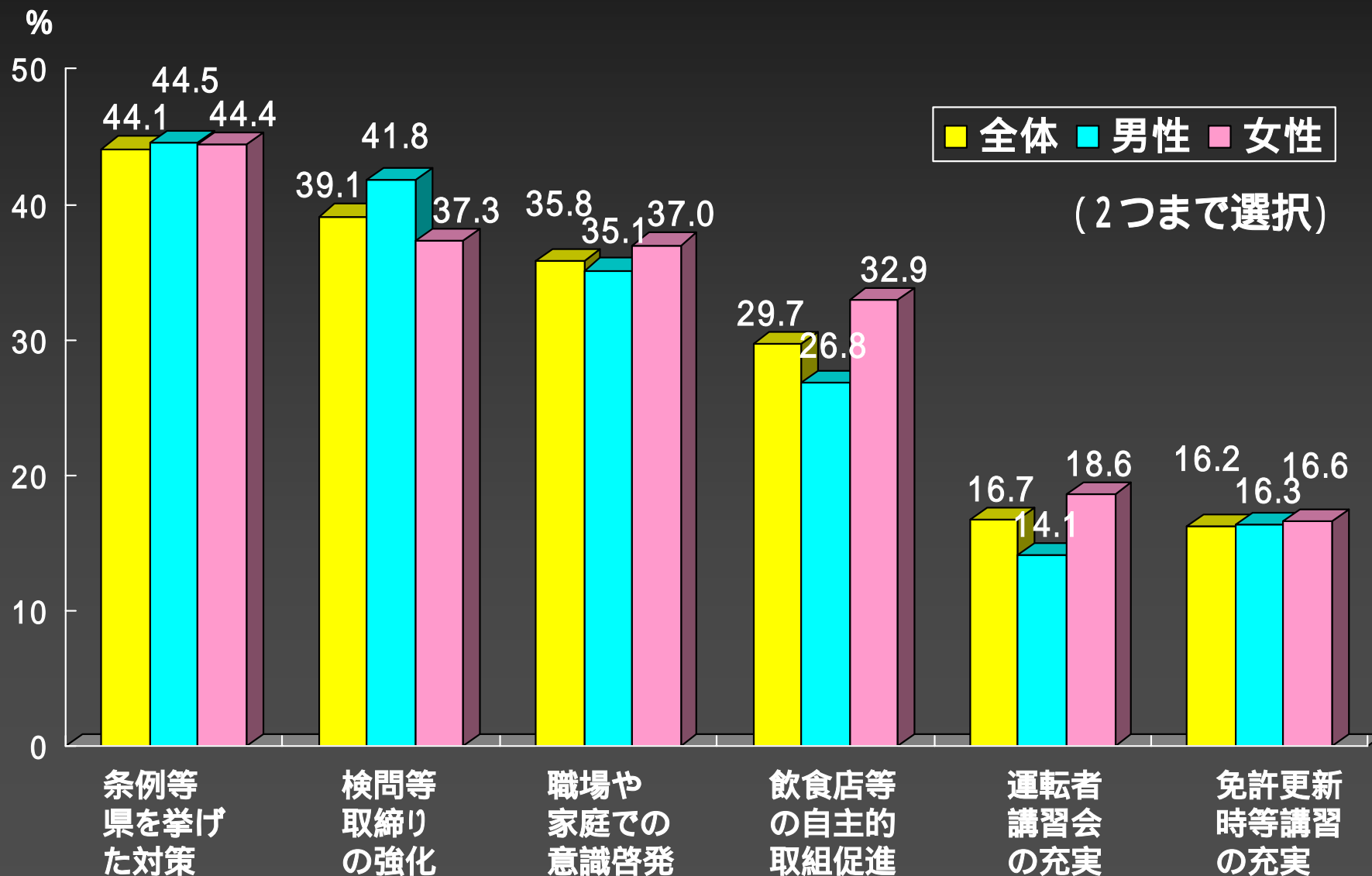
# 「安全・環境」分野で力を入れていくべき施策(P.61-62)

- 「食の安全・安心」、「治安・防犯」、「消費者保護」の順。
- 「不満派」が「満足派」を大きく上回っているものは特にない。



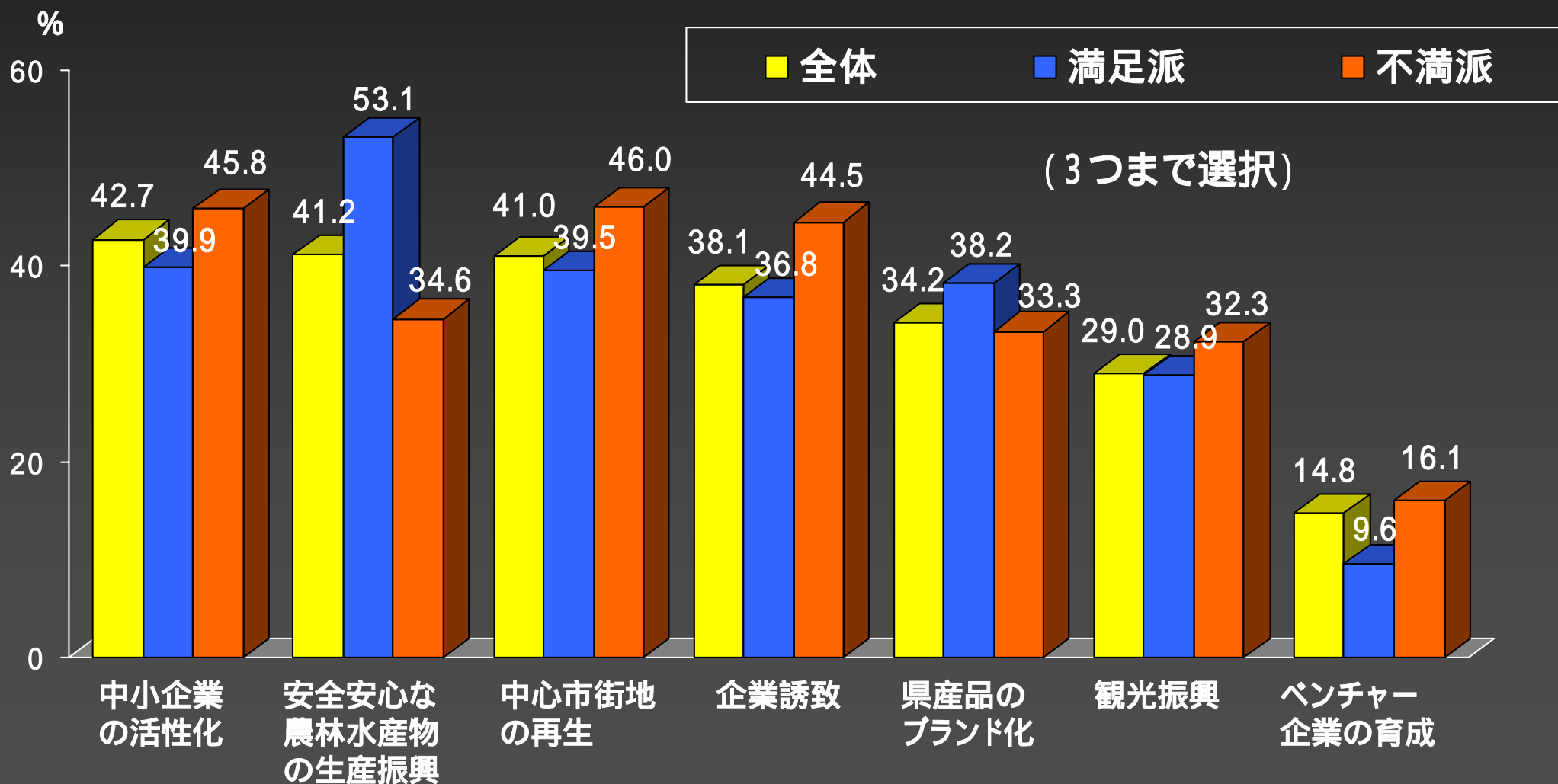
## 飲酒運転をなくすために充実するべき対策(P.63-64)

- 「条例等県を挙げた対策」、「検問等取締りの強化」、「職場や家庭での意識啓発」の順。
- 「取締りの強化」は男性の方が高く、「飲食店等の自主的取組促進」は女性の方が高い。



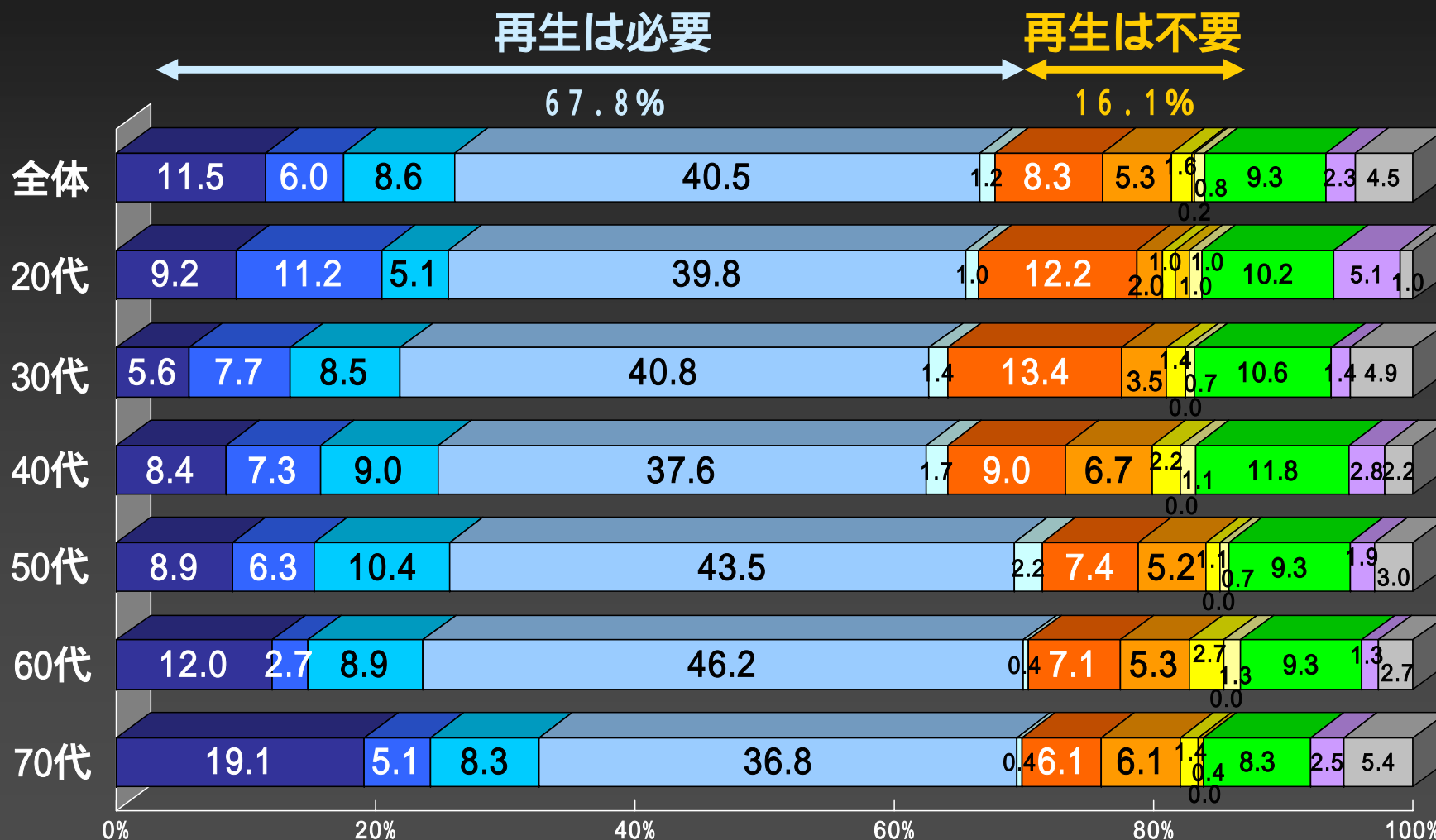
# 「産業」分野で力を入れていくべき施策(P.67-68)

- 「中小企業の活性化」、「農林水産物の生産振興」、「中心市街地の再生」の順。
- 「不満派」は「満足派」に比べ、「中心企業の活性化」や「中心市街地の再生」、「企業誘致」が高い。



# 中心市街地の再生の要否 (P.72-77)

- 中心市街地の再生は「必要」が67.8%と、「不要」の16.1%を大きく上回っている。
- 中心市街地の再生は「必要」とする割合が低いのは、30代と40代である。

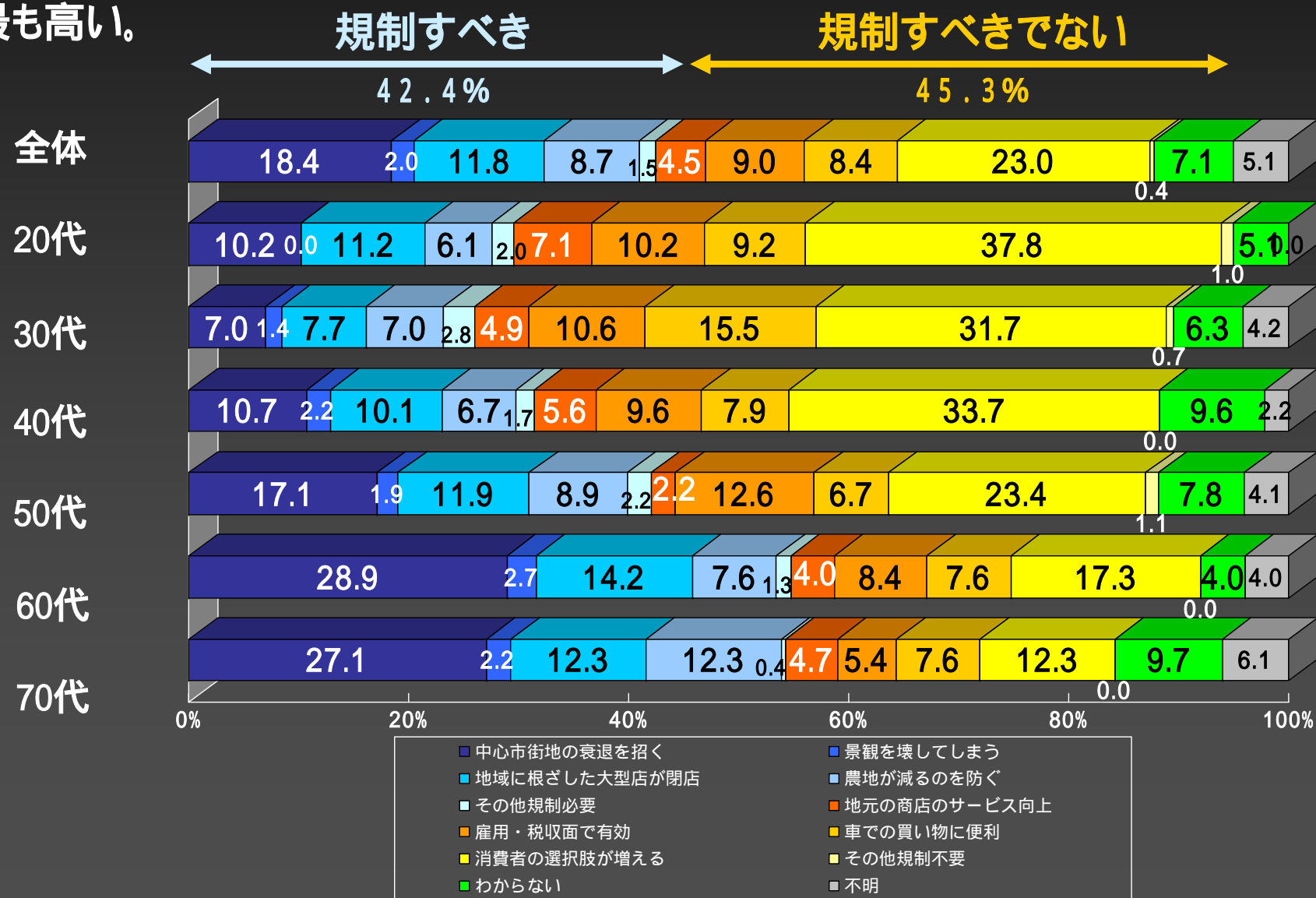


- 日々の生活に不便
- コミュニティが崩壊
- 歴史・文化・伝統の喪失
- 活力の低下
- その他再生必要
- 世の中の流れに逆らえない
- 郊外開発を優先すべき
- 今でも活気がある
- その他再生不要
- どちらとも言えない
- 関心がない
- 不明

# 大型店の郊外出店規制の賛否 (P.78-84)

➤ 大型店の郊外出店規制は「規制すべき」(42.4%)と「規制すべきでない」(45.3%)がほぼ拮抗している。

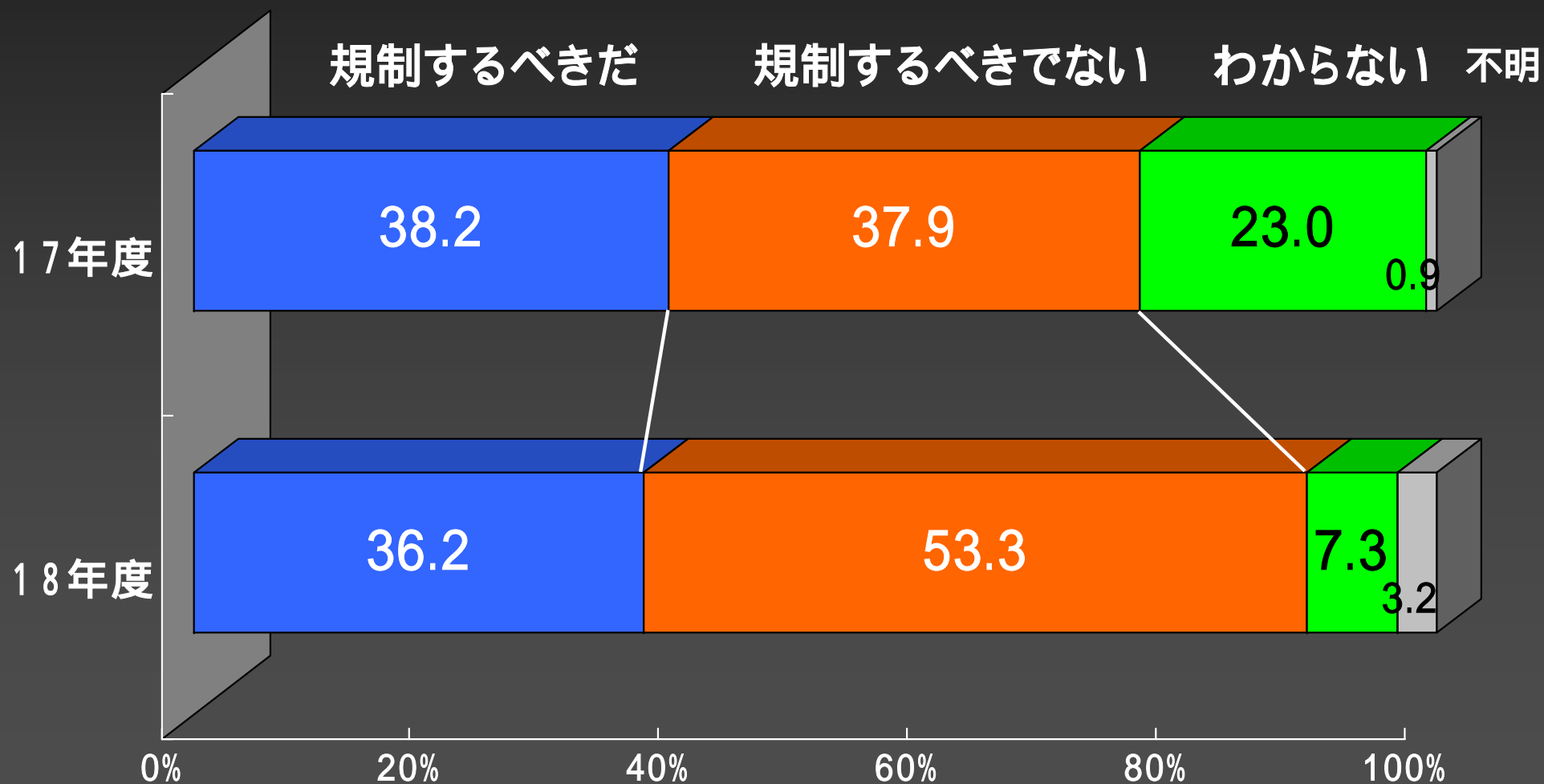
➤ 年齢が若いほど、出店規制は「規制すべきでない」の割合が高くなる傾向にあり、30代が最も高い。



# 大型店の郊外出店規制の要否の時系列比較(P.80)

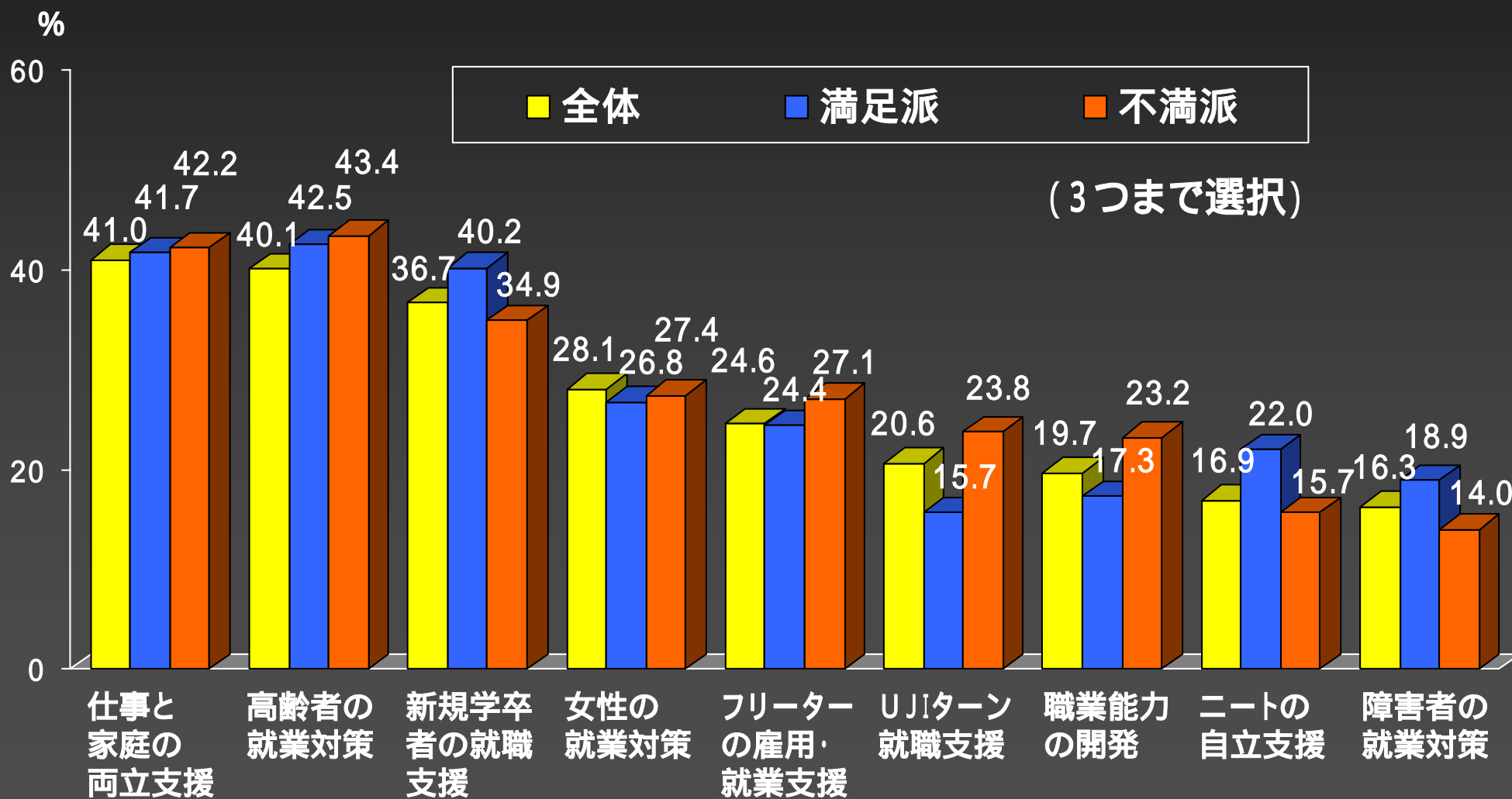
(20～64歳)

➤「規制するべきだ」が若干低下して、「規制するべきでない」が大きく上昇した。



# 「雇用・労働」分野で力を入れていくべき施策(P.85-86)

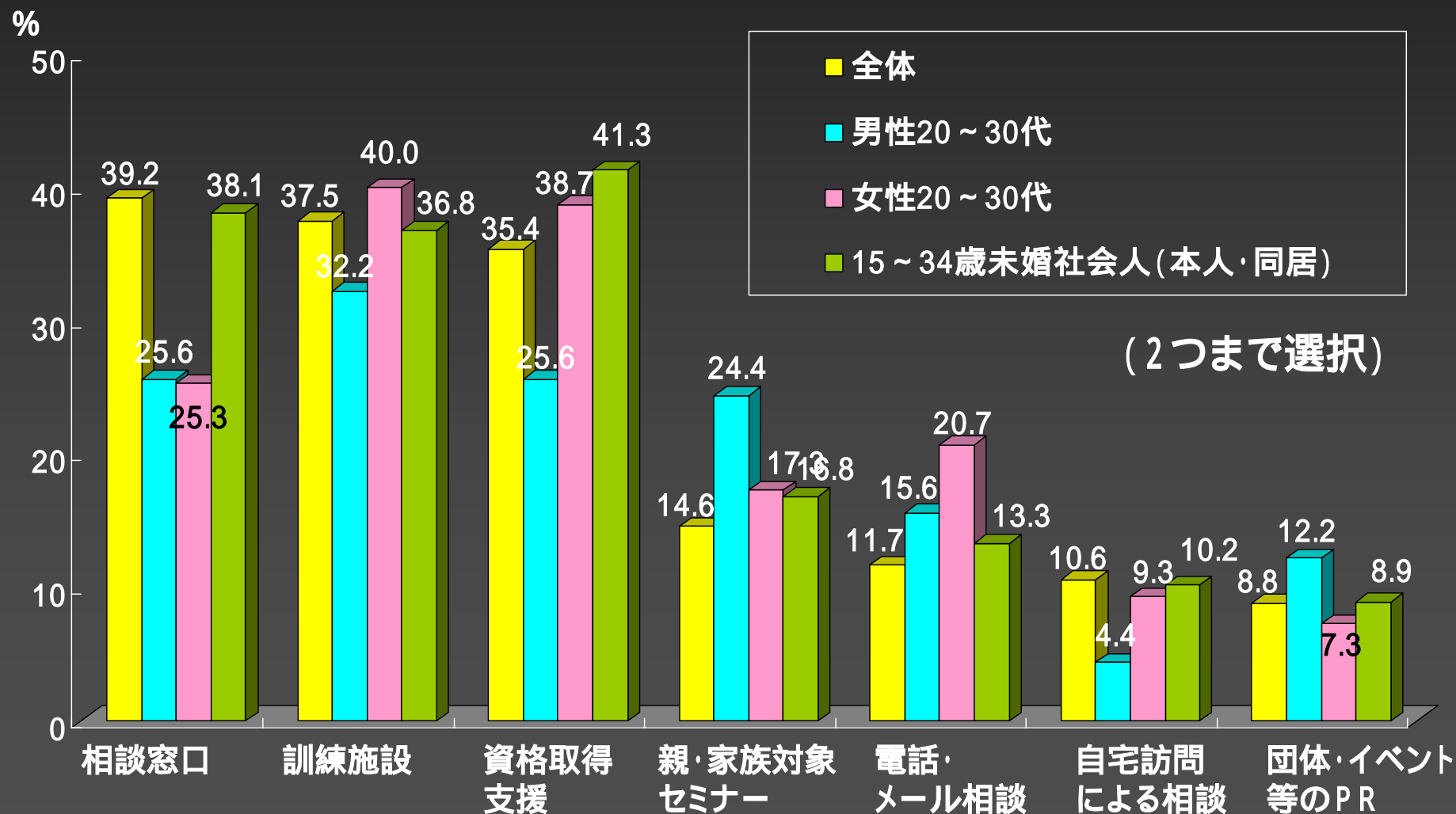
- 「仕事と家庭の両立支援」、「高齢者就業対策」、「新規学卒者の就職支援」の順。
- 「不満派」は「満足派」に比べ、「UJターン就職支援」や「職業能力の開発」が高い。





## ニート自立支援の充実すべき取組 (P.87-88)

- 「相談窓口」、「訓練施設」、「資格取得支援」の順。
- 20～30代では、男性の方が「親・家族対象セミナー」や「団体・イベント等のPR」が高く、女性の方が「訓練施設」や「資格取得支援」が高くなっている。
- 本人又は同居家族が15～34歳未婚社会人では、「相談窓口」が高くなっている。

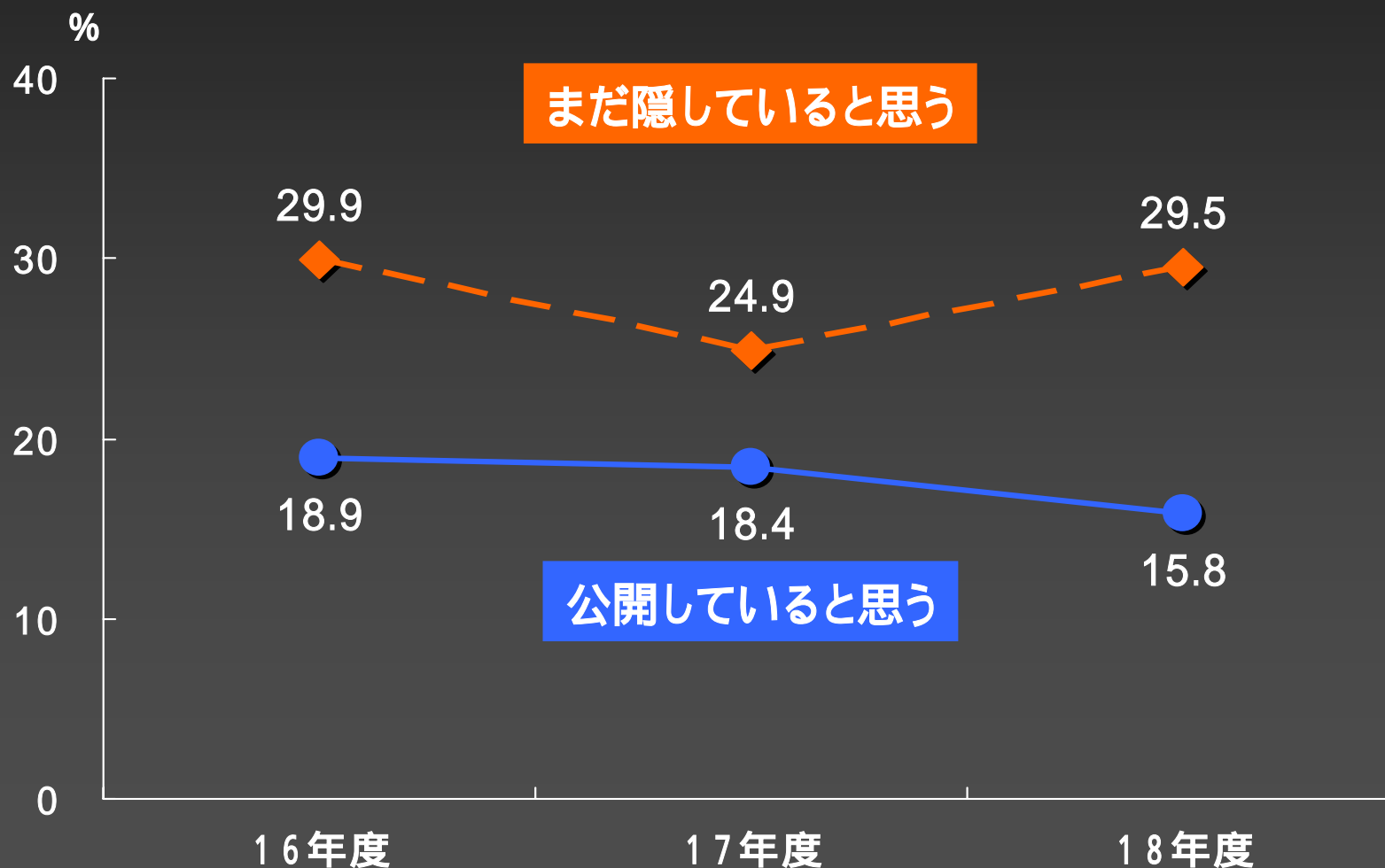


## 第3章 県政の運営に対する県民意識

1. 県の情報公開・情報提供の取組に対する評価
2. 「パブリック・コメント」の認知・意見提出状況
3. 県職員の印象
4. 都道府県のあり方

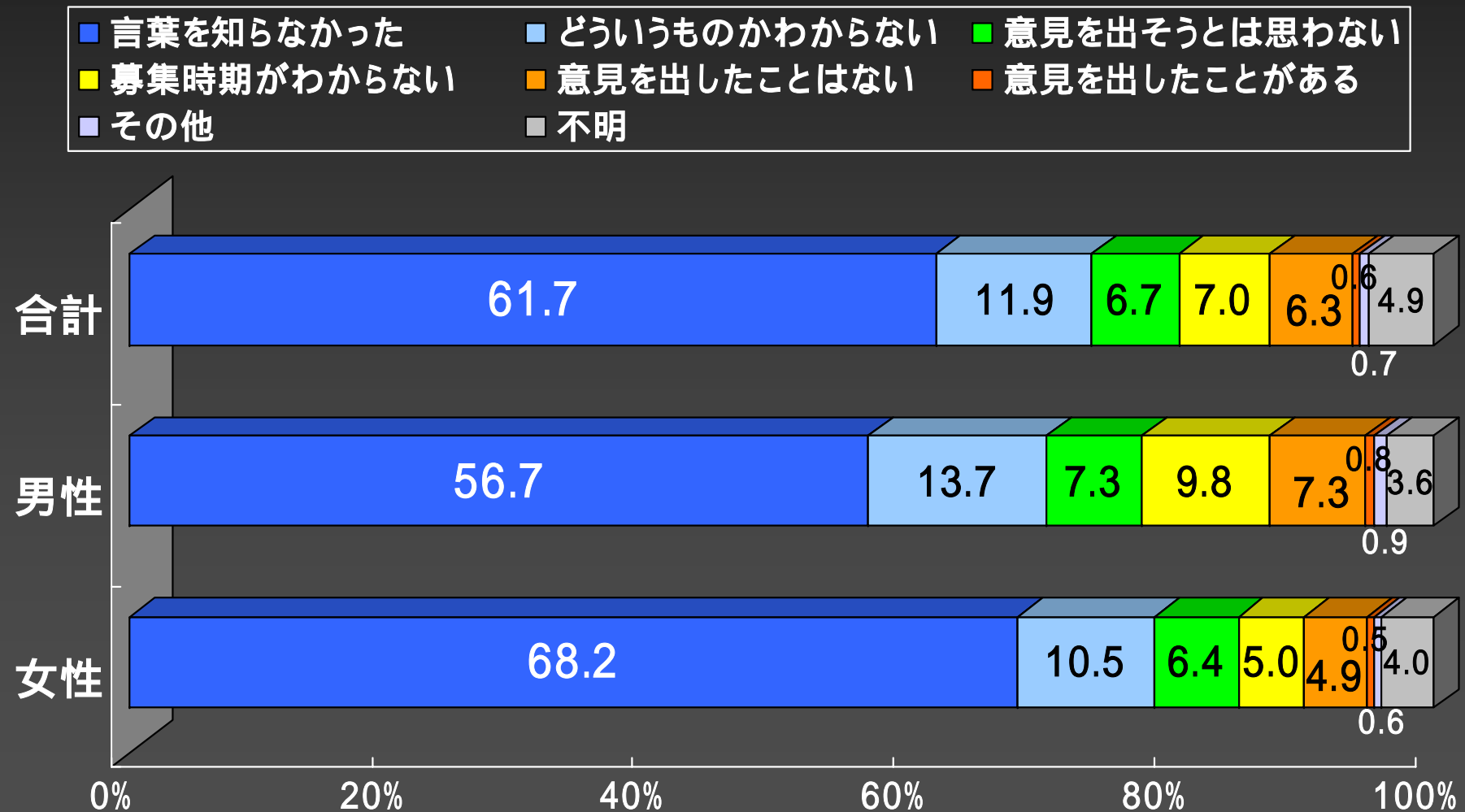
# 県の情報公開・情報提供の取組に対する評価の 時系列比較(P.100) (20～64歳)

- 『公開していると思う計』がやや低下して、『まだ隠していると思う計』が
- 上昇したため、その差が広がった。



# 「パブリック・コメント」の認知・意見提出状況 (P.101-102)

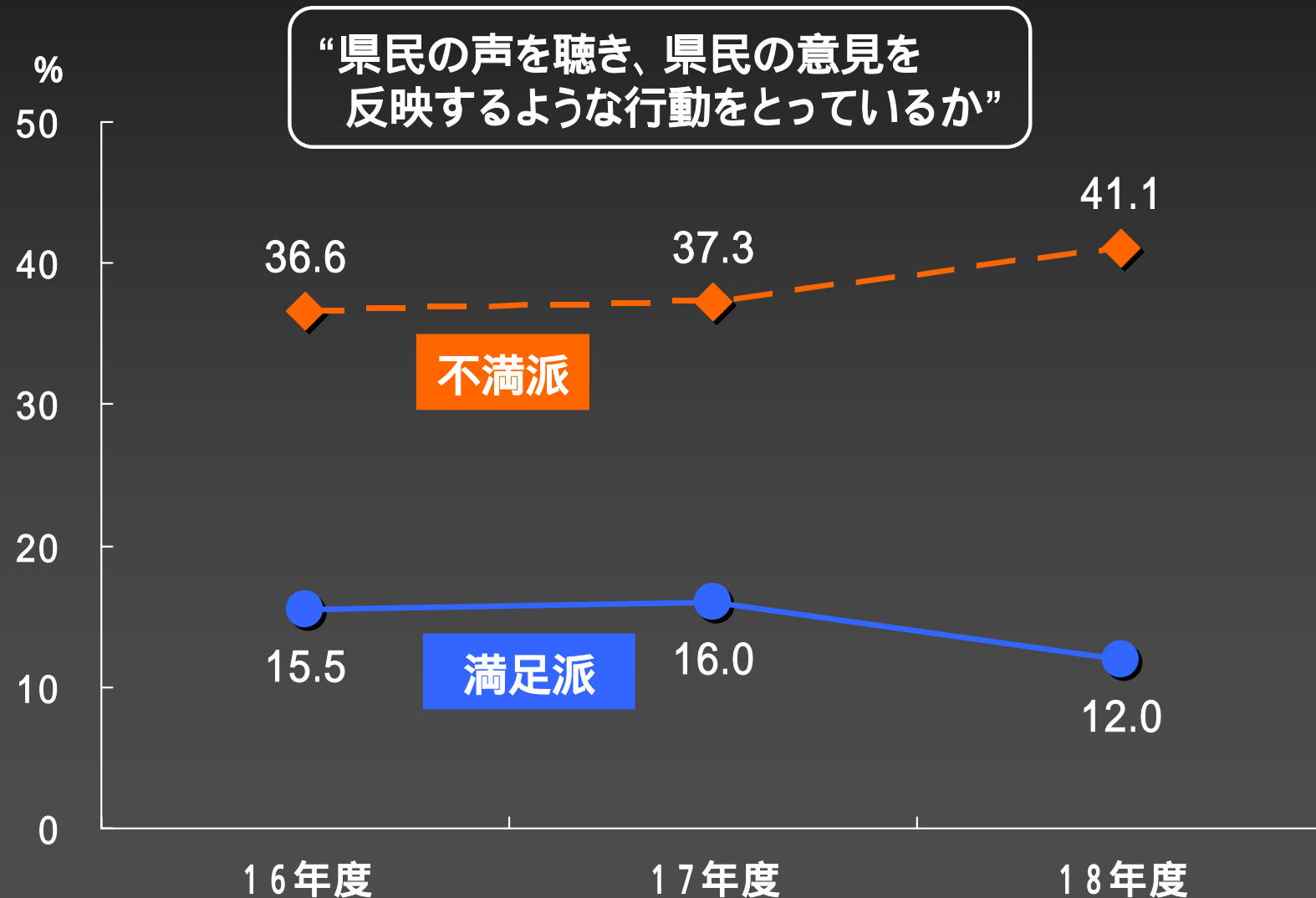
- 「パブリック・コメント」という「言葉を知らなかった」が、6割を超えている。
- 男性に比べると女性の方が、認知度がより低くなっている。



# 県職員の印象の時系列比較 (P.105)

(20~64歳)

➤ 『満足派』が低下し、『不満派』が上昇したため、差が広がった。



# 都道府県のあり方の時系列比較 (P.108)

(20~64歳)

➤「今のままがいい」の割合が上昇して、「都道府県合併をした方がいい」や「道州制にした方がいい」の割合が若干低下した。

